新女界

第二巻　第五號

明治四十三年五月一日發行（毎月一回發行）
明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第貳卷第五號目次

◎處世の覺悟　安井哲子
◎現代の女子教育に就いて　慶應義塾大學講師　向軍治
◎地久節と日本婦人の理想　共立女學校講師　赤星仙太
◎行當りばつたり集　文學士　内ケ崎作三郎
◎追懷の村　田澤藤郎
◎秋の姿　文學士　栗原基
◎女學生方に望みたき事ども　女子英學塾講師　川島芳子
◎患難に處する心得　海老名みや子
◎少年と讀書　法學士　杉村幹
◎人生難に處するの道　海老名彈正
◎時々其折々
◎不良學生と家庭の事情　法學士　鈴木文治
◎嗟忠勇義烈の士　一記者

賣り切れざる内本日直ちに購入あれ

婦女界

五月一日第三號　定價一冊拾五錢　郵税一錢五厘　一年十二冊郵税共一圓七十五錢

◎東宮妃殿下の御修養　◎三皇孫殿下の御學事

◎家政の巧拙は直ちに塵溜箱に現はる　田尻博士

▲廿二歳の春落生を脊負ひて國難な山中に避け涙を揮て苦諫した私の娘時代

▲御殿女中から豆腐屋のかみさんとなりて共稼の成功實驗

▲適當な嫁を得んが爲め再參死を決した私の經驗…嘉悦孝子

▲女子將來の進路は文學と社會事業…女子大學校教頭　麻生正藏

◎空中飛行機に駕して二度まで英佛海峽を横斷せし感想

◎五十餘人の書生を養成した苦心　仁尾繁子

大附錄　躑躅　二頁大三色版　滿谷國四郎筆

◎婚約後三十二年を宮中奉仕の女官と結婚式を擧ぐる予の心事

◎容色の變つた爲め離縁された前後の悔恨…豊島せつ子

▲家庭の不和が原因で罪惡を犯し遂に斷頭臺上の人たりしを不思議に助かつた私の實驗

▲時代の變遷に伴ふ日本室の裝飾　巖谷小波

▲田園生活の幸福　横井博士

▲女傑廣岡淺子刀自　▲衣裳の着こなし　▲髮の手當法

▲貴婦人の交際ぶり　▲鐵道院の女子雇員　▲應急常

◎何時も腹に子が居るものと覺悟せよ…村上博士

◎桂總理大臣の家庭　◎端午の節句の料理

發兌　東京神田表神保町　振替東京一三五番　同文館　電話本局特四三七　電話本局一五三九　賣捌　各地書林

看護婦募集

▲本會は從來小石川小日向臺町に設置して居りましたが、此度業務擴張のため麴町區飯田町五丁目一番地に移轉しました目下看護婦派出の申込多きにつき此際經驗に富む看護婦を廣く募集致します希望者は至急御申込あれ、

▲本會は病家の需に應じ速に經驗あり叮嚀なる看護婦を派遣致します、

麴町區飯田町五丁目一番地
東京同志看護婦會
電話番町八一一四

與謝野晶子女史著

女子のふみ

●體裁優美瀟洒 正價金四拾五錢 郵送料金八錢

閨秀作家與謝野晶子女史が候文、言文一致、雅俗折衷等の諸文體と溫健、優美、奇警、瓢逸等各種の情調とを以て現代婦人界の必要に應じ實用と文學とを調和る書翰文の一新例を示されたるもの、作例豐富、作法鄭寧、且、冒頭には通俗なる假名遣辭典を以てせる至便の好著也○敢て世の淑女、學生諸孃の座右に薦む

小笠原流作法家元 松岡止波子
大日本禮法學會長 石井泰次郎 先生共著

再版

明治の禮式作法

和裝紙美裝 全一冊 正價金六十錢 郵稅金八錢

本書は紳士淑女が現社會に處して日常に心得べき禮式作法を細大漏さず解説と共に圖解を加へて叮嚀に縷述し殊に一作法に就ても上、中、下に分ち各其等を越ゆることなく又其品位を貶すことなからしめたるは從來の類書に於て決して求むる能はざる處實に本書の特色たり速に一部を座右に備へて朝夕の栞とせられんことを

發行所 東京日本橋檜物町 振替東京二三〇番 弘學館書店

發賣所 東京大倉書店 東京堂 六合館 目黑書店 北隆館 東海堂 其他取次店 大阪市吉岡寶文館 杉本書店 盛文館 奥田九州 菊竹金文堂 名古屋川瀨書店 小澤書店 京都東枝書房 若林 其他全國取次店

▲『人道講話』は教育的方面の講話を掲載す
▲『人道講話』は宗教的方面の講話を掲載す
▲『人道講話』は道徳的方面の講話を掲載す

●乞ふ、本誌其の後の發展を看よ●

人道講話

毎月一回一日發行
定價六錢郵税五厘
壹年郵税共七拾錢
但會員特待法あり

第四號（目次）五月一日發行

講話 修養につきて　文學博士 村上専精

一、修養の意義
二、修養の必要なる所以（以上第一號所載）
三、修養の必要なる原理(1)儒教に就きて―(2)佛教に就きて（以上第二號所載）
四、修養の分類＝體格に對する修養―技藝に關する修養―知識に關する修養―情操に關する修養―意志に關する修養―最終理想の修養　以上第三號所載）
五、修養と教育―六、修養と宗教―七、修養と道徳―八、修養の方法―九、修養の目的―十、修養の結果、（以上第四號）

感話、雜錄、（毎號趣味多きものを掲ぐ）

附錄、女誡講義　講義は親切平易なり

會員募集

人道講話會規約

一、本會は教育、宗教及び道徳に關する講話を直接又は通信に依つて聴かんと欲する者を以て組織す
一、本會本部を東京市小石川區丸山町十二番地東洋高等女學校内に置く
一、本會は文學博士村上専精氏を推して會長とし、其他幹事一名事務員若干名を置く
一、本會は本會の目的を達せんがため毎月一回講話會を開き雜誌『人道講話』を發行す
一、本會は何人をも選ばず入會を許す
一、本會に入會志望の者は住所姓名を記し、壹ヶ年以上の會費を添へ本會本部に申込むべし
但し會費一ヶ月金五錢一ヶ年金六拾錢とす
一、本會々員には毎月一回雜誌『人道講話』を無代にて配賦す

東京市小石川區丸山町十二番地
人道講話會
振替東京二〇三二四番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人世界

五月一日發行 五巻第五號

一冊 十五錢 郵税一錢五厘 半年分郵税共一圓五錢

◎女學校を卒業して結婚する婦人に忠告す……大隈伯爵

△子供なきため姑に虐待され遂に離縁されたる私の實歴……眞鍋ゑみ子

◎出征の時衣服を賣て駿馬を求めし私の妻……比志島中將

△子供は何ヶ月より副食物を初むべきか……醫學博士 加藤照麿

◎私が外科手術を受けた時の實驗……村井弦齋

脚氣病の治療法發見さる……弦齋夫人

▲脚氣は日本人の國民病なり今や効驗神の如き療法發見す詳細本誌▼

▲米飯を常食とし味噌汁を用ゆる家庭は直に實行し得べし詳細本號▼

◎乃木大將母堂の臨終に侍して感じた事……山口博士

△神風連に襲はれ妊娠六ヶ月の身で屋根より飛降りた當時の話……中佐未亡人 與倉鶴子

◎佐佐木侯薨去の時内親王殿下台臨の御模樣……佐佐木侯夫人

△唖夫婦の家庭を訪うて筆談した記……婦人記者

◎婦人の芝居見物の利害……村井弦齋

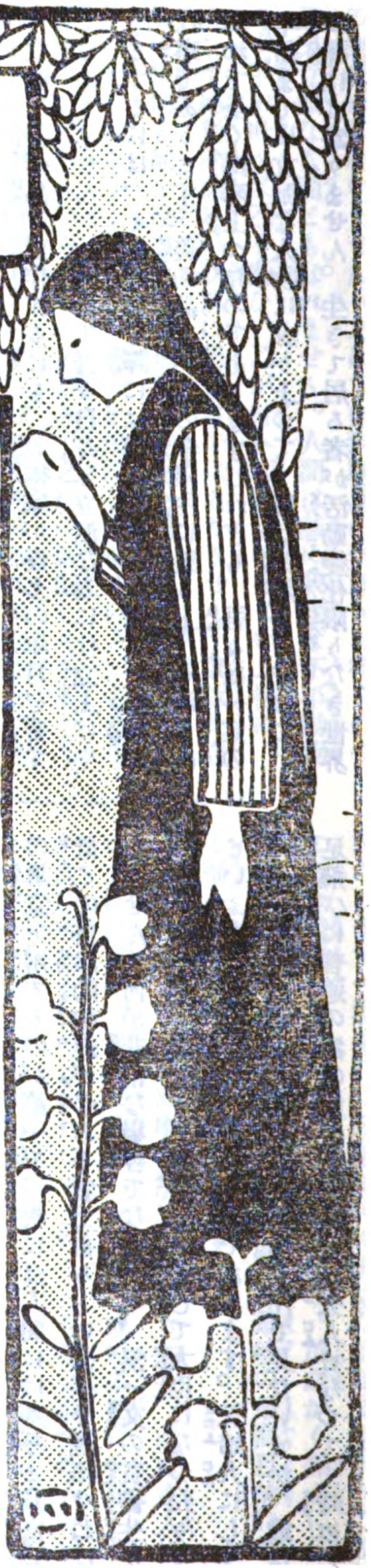
東京京橋南紺屋町（郵便振替貯金口座三二六番）賣捌全國各地書店

發行 實業之日本社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界

第貳巻第五號



處世の覺悟

安井哲

處世の困難な事は今初つた事ではありません。併し近頃の樣に靑年も壯年も老人も否少年までも之れを感ずるのは、如何なる譯でありませうか。それは外でもない、生存競爭が烈しくなつて來て、體力も知力も余程卓越した人でなければ、希望通りな生活を爲す事が出來ぬからであります。其故に普通の健康と知力とを有つて居る小學兒童は、善良な中學や高等女學校の入學試驗に及第する事が出來ませんので、小さな頭を惱ませ、中學や高等女學校の卒業生は、其以上の專門學校に入る事が困難で苦勞し既に高等の學校を卒業した者は、適當な職業を得る事が出來なくて心配して居るといふ樣に、誰でも彼れでも處世難をかこつのであります。其結果として、年の少いのに

神經衰弱を來たし、或は健康を損して、何の仕事にも從事する事が出來ず、終には自暴自棄を起こして自殺する者もあれば、又は墮落して人間の仲間外れを爲す者さへあります。日々の新聞に現はるゝ種々の出來事は皆此例であります。

かくの如く速に自分の欲望を滿足させて、此世に成功する事が出來ぬ時には、自暴自棄して生命を棄てたり、或は有らん限りの惡事をして「やぶれかぶれ」の生活をするのは、何といふ短氣な又何といふ自己を卑めた行動でありませうか。かゝる人々は何を目的に此世に住んで居たのか、又如何なる人になりたいと希望して居られたか了解に苦しみますが、成功して人々の尊敬や羨望を受けたいと望まれたからには、兎も角も立派な人になりたいと思はれたに相違はありますまい。併恐くは立派といふ意味が誤つて解釋されたのでありませう。

立派な美術品を製作するにも、美術家が幾多の年月を費すではありませんか。況して吾々自身を立派な者に仕立上げやうとするには、そんな急な譯には參りません、實に一生涯の仕事であります。美術品は一定の年限内に製り上げられゝば其れで全く出來上つたのでありますけれども、吾々は一定の年齡までに立派な人物に成り上つて、後は其限りですむといふ譯には參りません。生きて居る者が活動變化限りなき世界に生活して居る間は、絶えず修養と研究とが必要で、吾々の理想は遙に高く又遙に遠い處にあるのであります。世の中には「彼人は理想が余り高過ぎる」と評する人がありますけれども、理想に高過ぎるといふ事はない筈であると考へます。一生かゝつて達しやうとする理想でありますから高いのは勿論で、容易に達し得らるゝ者とすれば、自然向上心にも限りがあり、又發展の止まる點がなければなりますまい。そこで吾々人生の目的が高い處に在つて、容易に達し得られぬ者と初から覺悟して居り、而も其れに達しなければ立派な人間になれぬといふ事を熟知して居る時には、一方には成功を急がぬ樣になり、一方には勤勉努力を繼續する樣になります。

私は富とか位置とか名譽とかいふ樣な此世の成功のみを夢みて、或は喜び或は悲んで居られる方々に、平和な心の狀態を保たれん事を御勸め致します。それには前申した樣な成功の眞意を解するのが第一で、次には人間には身分と貧富と位置との自然的相違が必ある者であるといふ事を覺悟せねばなりません。何か非常な場合でなければ、無一文の貧書生が急に巨萬の富を得たり、一學生が一躍して大臣になつたりするといふ事はあり得べからざる事であります。又婦人にしても大金持の妻となつて美衣美食を樂しんで見たいとか、或は一足飛びに普通の家の娘から貴顯の令夫人となつて、時めいて見たいとか考へるのは、恰も前の場合と同樣で共に深い生活

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の意味は御座いません。之れでは到底眞の幸福をも得られず且又立派な人間ともなれません。人間は誠に我儘な不平動物で、甲が叶へば乙を願ひ、乙が叶へば丙を望むといふ様に、決して絶對的滿足の狀態に居る者ではありません。其故此自然の傾向を能く反省して、最後の滿足を得る道に氣長く進むが得策ではありませんか。萬一を僥倖して普通の人が普通の場合に出來得べからざる事を望み、之れに齷齪して苦悶して居るよりも、忍耐努力さへすれば必ず得られる最高物を目當に徐々に進んだ方が、遙に愉快ではありますまいか。

そこで之れに進む方法が眞の處世法で、現在の位置を樂しみ、現在從事する職業に滿足し、一生懸命に日々爲すべき事を爲すといふのが最肝心であります。例へば學生ならば、現在學校で學習して居る事を熱心に學ぶのが第一で、自分の頭腦を用ふる代りに、他人の頭腦を用ひて自分の仕事をしたり教師の批評や教授の巧拙などにのみ注意を向けて、自分の爲す仕事を怠るなどは、大に誤つた學生の生活法であります。

又一の職業に從事して居る者でも、一家の主婦となつて居る人でも、如何に現在の境遇が自分の欲望を充たすに足らなくても、決して他人を恨み、夫を恨み、或は其境遇の不幸を悲しむことなく、其與へられた境遇に在つて、自分の爲し得る最上の生活を爲さんと工夫するのは、一種の高尚な樂しみであります。其中には經驗が種々有益な智識を與へて、次第に良き境遇を作り出す事が出來ませう。加之かく熱心に且誠實に現在の仕事を爲すといふ事が、即最後の最高目的に達する唯一の方法であるのであります。

世には日々の新聞記事に現はれて居る如く、或は主人に叱かられたとか、試驗に落第したとか、或は事業に失敗したとか世に容れられぬとかいつて、輕々しく命を棄てる人々がありますが、吾々の生命は其程廉い者ではありません。加之假令自分の體であつても、自分勝手に殺す事は出來ぬのであります。吾々の生命は落第や事業の失敗位に代へるのには、餘り貴過ぎますし、又吾々の生活の目的は一學校を卒業したり一事業に成功する位の低い者ではありません。其故にかゝる一時的逆境に處した場合には、能く心を平靜にして、之れを通過する最良の方法を考へ、之れと同時に自分の進むべき道は、未だ遙先である事を覺らねばなりません。

要するに、吾々は人間としては、其身分職業に論なく、一様に最高點に達し得る者でありますけれども、社會の一員としては、自然に是等の點に區別がある者である事を忘れず、假りに身分が尊くとも之れに滿足せず、人間としても亦立派な者になりたいと希望し、又假りに身分が卑くとも、人間としては立派になり得るといふ事を樂みとし、徒らに他人に誇

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つたり、妄りに自身を卑しめたりして、無意味の生活をせぬ樣に心懸けたい者であります。殊に職業は其自身に卑い者ではありません。汗水流して勞働し其れで立派に生活して居る人は、實に尊敬すべき人であります。然るに時とすると、自身の職業は卑しいとて、何の制裁も加へず、修養する事もない人がありますが、之れは大間違であります。吾々は決して如何なる職業でも其自身を賤しめませんけれども、之れに從事して居る人の人格が下等であれば、自然に之れを卑しめる樣になるのであります。故に如何なる職業に從事して居ても、又如何なる位置に居ても、唯忠實に其爲すべき事を爲し、かくて登るべき道を徐かに見出して、永遠に絶ねざる希望を抱かうと努めねばなりません。

奈良七重七堂伽藍八重櫻
花の雲二丁登れば大悲閣
（芭蕉）

新刊紹介

◉イートン學校及其校風　本田增次郎著　内外出版協會　定價貳拾錢

ヘンリー五世の創立にかゝるロンドンの貴族小學校の參觀記である。三十八頁許りの小冊子であるが多少の參考にはなるであらう面白いと思つた處一二を拔く

「ある教場を參觀して居ると、一人の生徒が頰杖ついて本の上に屈んで、坐睡りしては居ないかと思はれる姿勢である、やがて教師が目配せすると、三方の生徒が立つて各自の本でピシヤ／＼と頰杖少年の頭を見舞ふ」……「尤も感服するのは生徒の參觀人に對する態度である。後ろ又は横に立つて見て居ると多くは教師の指圖を待たずに本を貸してくれて、自分は隣席の生徒のを見る。それから何か書いて居る時は、川紙を推し出して成るべく參觀人に見ゆるやうにしてくれる。女學校の生徒も全く同じである。……

◉ジョンハワード言行錄　森近運平編著　内外出版協會　定價の拾錢

十八世紀の博愛家ジョン、ハワードが一生を通じて人生の最闇黒なる監獄を研究して可憐なる罪囚に熱烈なる同情を寄せたる偉業を傳せるものである

◉ロビンフード物語　文學士近藤敏三郎譯編　内外出版協會　定價三拾錢

三百の弓手を自已の部下として、强を碎き弱きを助けて所謂任俠的行爲に英國の少年をして神飛び心躍らしめたる昔噺を近藤氏の纂譯せられたるもの、面白き讀物の一たるを失はず。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

現代の女子教育に就て

向軍治

▼今の女子教育は十年遅れてをる

教育は未來の社會に適したる國民を拵へるのが目的であるから、其目的を達する方法によりて教育しなければならぬ筈である。今學校で教育をうけて居る生徒は、直に今の生活のためではないので、皆將來の社會に立ちて人に後れを取らぬ紳士淑女として耻しからぬ人格を得んがためである。であるから學校の教育といふものは、何時も其時代に先んじて居らねばならぬものである。若し其時代に先んずることなく、時代の程度丈に止ることを以つて滿足して居つたならば、如何に設備がよく行屆いた學校に入れても、其卒業生は決して將來の社會の適者となれぬ許でない、其社會では世間遅れの者となるの外はないであらふ。

さて此の見地から今日の女子教育なるものを見ると何うか吾人は教育者が其餘りに時勢遅れの教育を施して恬として顧みずに居るに一驚を喫せざるを得ないと共に、自分の可愛い子女、否貴むべき未來の國民の母たる年少の女子に斯る教育を授けられて、毫も意としないで居る父兄の多いのに驚くのである。

現時の女子教育は將來の我國民の母たるべき婦人を目的として居ない許でなく、現代の時勢にさへも沿ふて居らぬと思ふ。否却つて時代と逆行した教育を施して居るではないかと思はれる。多くの女子教育家の理想とする所は古來の良妻賢母主義のそれである。女大學に教ふるそれである。社會はドシ〳〵進歩して止る所を知らぬといふに、將來の國民の母たるべき女子を教育するに、過去の婦人を理想とし典型として逆行せんとするのは何ふいふ考へで行るのか。吾人は之を知るに苦まざるを得ない。斯る教育をうけて居る現代の年少女子は何も知らず無我無中で、只目前の華麗な虚榮に醉ふて居

る許、少しく自覺しかけたものも行くに道を知らぬといふ有樣で、遂には煩悶懊惱の迷宮に彷徨するに至る許りである。明確な理性で女子の本分を悟り、將來の國民の母姉たる資格を自覺し、而も自己の境遇に滿足して喜悅に生き、感謝に輝き、希望に勇みて其生活を營んでをる者に至つては、眞に寥々として曉天の星も啻ならぬ樣である。若し現代の女子教育が只現代の社會をのみ見て居るならば、其教育は、將來の社會から見て數年をくれたものである。然るに却つて昔の古い女子の資格を典型として居る所から見れば、十年も二十年も今の女子教育は遲れて居るといふてよからう。

▼今の女子教育には趣味の教育が著しく缺けて居る

斯る時勢を省みない、否時代と逆行して居る教育が旺んであるから、隨分今の女子教育には困る點がある。男子の教育と女子の教育とは、同じく教育ではあるが自のづから違う點がある。男子は學校で學習した所を以て、社會に出づれば直に現代の生活に應用することが出來る樣になつて居ることを第一の目的として居る。併し女子の方は悉くそうは行かぬ、學校を卒業してから、結婚をして、母となり主婦となり其の後に至つて次第に今受けて居る教育が現はれ役に立つ樣になるのである。一粒の種子が地に落ちて、次第に芽を出し、葉を生じて生長する樣なものである。要するに凡ての教育は性格の陶冶を目的として居らねばならぬが、殊に女子教育に於いては然うであると思ふのである。

然るに現今東京などで多く見る女子教育は、此の目的から甚しく遠ざかつて居る樣に思はれる。第一女子の優美なる性格には最も缺くことのできない趣味の教養といふことが、甚しく忘却されて居る樣である。此頃も宅の小さい娘が歌つて居るのを聞いて見ると、軍艦の唱歌である。軍艦の名前をズラリと暗誦した所が、それが女子の性格と如何なる關係があるか。又動ともすれば戰爭の唱歌である。それも獨立戰爭とか、赤十字社とか、看護婦ナイチンゲールとかいふのならばまだしもであるが、何の意味もない樣な軍艦の名を暗誦した所が果して何んな教育の效果あるだらふ。或は電車唱歌にしても同然である。單に地名や場所の名前を敎へるといふ丈では、唱歌の如き何等趣味の教育として効なきに至るのである。近來はまた四十七士の復讐談の如きもてはやされて來たが、只でさへ性來嫉妬の弱點あるといふ女子に向つて、あんな談話をして貰つてはたまるものでない。

それから女學生の墮落といふことを新聞が書きたてれば、直ぐ小說を讀んではならぬとツマラヌことを氣にかける、皆

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

々小説を讀んで居る者許でもないのに、殊更に之を禁ずるから、今迄讀まないものまで密に讀んで見たくなる。また實際讀みたいものなら禁じた所が効果がない。夫れよりも何かよい讀物を推擧するとか、或は全然學校教育の時代逆行主義を變へなければならない。健全な讀物といふても婦人の趣味教育を沒却したものなどでは駄目である。論語や女大學など許りならべたつて、今の年若い婦人は見向きもしまい。

▼統一ある女子教育

されば吾人は何も良妻賢母を非とするものではない。只それが將來の社會、將來の國民を目的として居るか、將た過去の婦人を典型として居るかの問題である。將來の國民の母たるものゝ資格を思ふ時に、吾人は今の教育が更に十倍も廿倍も進步して欲しいのである。見地を進めて貰ひたいのである。大にハイカラ(善い意味で)になつて貰ひたいのである。

今の良妻賢母主義の學校では、良妻賢母々々々々と口喧しく生徒の耳につめこむのであるが、併し斯る學校の生徒は日々通學するに御化粧ごしらひである。學校では之を見ても見ぬ振をして居る。何處に教育者の本領あり主張あるか譯がわからない。眞に統一ある教育上の主義方針を取つて居るものは、誠に少ないのである。吾人は單に現今の女子教育の缺點を痛罵して快とするものでない。吾國の將來を思ひ、將來國民の母たるべき現代の年少女子の教育を思ふ時には之を言はざるをえないのである。それで批評は之れ位にして他日又積極的な考を述べることにしやうと思ふ。(文責記者)

地久節と日本婦人の理想

赤星仙太

二三年計り前に、學校で「地久節の新聞」と云ふ作文の宿題を出した事があつた。其は幾らか世事に疎い時弊をも防ぐ爲めであつたが、生憎當日の新聞には御寫眞か數行の祝詞位なもので、其祝節を紀念せしむる樣な文字が餘り見當らなかつた。日本國民が衷心から壽がねばならぬ地久節が、世の注意を惹いて居らぬは遺憾である。其地久節が近々に來る、之に就て幾分の所感を述べて置くのも決して無益でなからう。

五月二十八日は單に　皇后陛下の御誕生日と云ふ丈でない三十七八年戰役の歷史は日本海々戰の勝利と云ふ新事實を加へた。當時天佑と誇つた日本國民は、其五週年紀念を祝するに當り、果して如何な態度に出づるであらうか。海軍紀念日

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は男子に任すとして、日本の女性は其國母陛下の御誕生を如何に紀念しつゝあるか。展覽會よりも、運動會よりも、文學會よりも、一層精神的に此日を紀念すべき筈である。

小學生徒の理想的人物を取調べたのを見ると中々面白い。十歲を越した許りの女兒が豐臣秀吉だの、ナポレオンを偉いと思つて居る、未だ心の堅らない女兒に斯樣な亂世の英雄を慕はせるとは困つた事である。然し嬉しい事には、同じ女兒でも尋常小學の上級位になると、段々女らしくなつて紫式部とかナイチンゲールとか云ふ。自分の母樣や御友達抔を理想と爲る者さへある。一體、女は何處迄も女らしく無ければならぬ。昔のクリスチアンがマリヤに神事する樣になつたのも、間違ひには相違ないが、其處に婦人の心理的要求の存する事を看過してはならぬ。自分は近頃切に思つて居る、聖書中で一番日本型の婦人はベタニヤのマリヤでは無からうかと。兎に角、自分の天職の中に生涯を送り得る忍耐と自由とを有する婦人は偉い。

で、女は女らしい女を理想と爲ねばならず、然かも日本婦人は何處迄も日本型で無ければならぬとして、畏い事ではあるが、國母陛下は日本婦人の理想では無からうか。自分は然うあつて欲しいのである。それには是非共陛下の御平生が承はりたい。所が、遺憾な事には我が國風として陛下の御平生

抔を傳へ奉るは不敬な事の樣に誤解する傾きがある。一體、我が歷代の皇后は始め專ら皇族の間から撰ばれたので、武內宿彌の御孫に當らるゝ方が御入內になつてから所謂源平藤橘の諸家から召さるゝ事となり、今日では五攝家の間から撰ばるゝので、要するに餘程平民的の所がある。加之、皇族方御自身が段々平民的にならせらるゝ傾きがある以上、國母陛下の御平生抔が今一層世に傳へられて、地久節の樣な時に殊更切に御坤德の程を拜察し奉りたい。

陛下御事歷の一端を記さう。陛下御名を美子と喚ばせられ故從一位一條忠香卿の第三女に在し、嘉永三年四月十七日の御誕生で、當年第六十一回の地久節を迎へらるゝのである。御年四歲に渡らせらるゝ時に所謂黑船の來航があり、爾來風雲暗憺として天下は喧しくなつた。中山卿と云へば當時朝廷の要路に立たられた方、其の配慮痛心如何計りであつたらうか。未だ幼く在らせられた皇后陛下が小さい御心一つを痛められた事もあつたらうと察せらる　。一般臣民の家庭ならば兎に角、中山卿とも云はるゝ家庭に育たれた御身として然もあるべき事と思ふ。軈て慶應の二三年國事多端の折柄、端なくも此難關に處して心身を惱まされた先帝孝明天皇と時の將軍德川家茂公とが相次いで世を去られたのである。慶喜公が將軍職を襲がるゝや間もなく政權奉還となり、時局は實に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

走馬燈の如くに展転した。其間に即位せられたのが　今上陛下で、先帝の崩後直ちに御踐祚遊ばされたが、天下未だ不安であつた爲めに、即位の大禮典は明治元年八月迄猶豫せられた。皇后陛下の御入内は實に其年の十二月なので、御年二十歳に渡らせられた。其時は最早鳥羽伏見の戰も果てゝ慶喜公は水戸に退かれ、奥羽の戰も濟んだので平穏に歸した樣にも見れたが、箱舘の五稜廓は未だ落ちない、決して所在悅服とは云へぬ。此際に入内遊ばされた陛下の御心、如何あらせられたらう。英の女王ヴイクトリヤ陛下が即位せられた時、ダニエル、オーコンネルの祈禱の言葉は、幾分か此際の皇后陛下の御思召をも示し得るかと思ふ。

『天つ大神よ、陛下を祝し給へ。陛下は御年僅かに十九に過ぎず、若やぎて美しく威ありて潔くはあれど。あはれ、いとしき君が蓬萊の夢も今醒めざるべからず。氣高き皇統を嗣がむとて、陛下のうら若き情緒溢れてあり。』云々（抄出、意譯）

事情は違ひもしやうが、幾分か連想のよすがともならう。殊に其際　天皇陛下の御年は十八に渡らせられたと云ふでは無いか。創世紀第二十四章の終りの方に斯樣な事がある「イサクリベカを其母サラの天幕に携れ至り、リベカを娶りて其妻となし、之を愛したり。イサクは其内に別れて後、茲に慰藉を得たり。」畏れ多い事ながら、若年に渡らせられた天皇陛下叡慮の萬一を推察せらるゝではあるまいか。天皇陛下の御左右には慥かに忠良の臣があつて事々に御輔け申したに相違は無いが、然し多年の困難に處して裁斷流るゝが如くであつた御父君は既に幽冥其境を異にして居らるゝ。此際、御年上の皇后を迎へられた事が如何程、宸襟を安んじ奉つたか知れぬ。皇后陛下は、確かに皇后陛下以上の事を爲られたに相違ない前掲の句を蘇國の盲目牧師マセソン博士が釋いた言にも

Her influence in the house was that of a compensation. The heart of Issac had been overshadowed by the death of Sarah; Rivekah's first love for Issac was a mother's love......

There is many a woman whose attitude to her love takes the form of protectiveness

と見れた。

皇后陛下其後の御事蹟、今更詳しく述ぶるにも及ばぬ。爾來今日に至る約四十年の御生涯、決して平穏無爲でゐらせられたとは云へまい。幾多の慈善事業教育事業に御心を留めらるゝ事は、皆我等の記臆に新たな所である。戰爭中には親しく繃帶を割き給ふた事は、我等臣民が密所の事に係はるにも當らう。兎角に、考へが抽象的になり易く空想に捉へられて生平を愼まぬ勝な今日の女性生活に、皇后陛下の御平生に學

ぶべき節が多々ある事と信ずる。

「金剛石も磨かずば、玉の光りもそはざらむ、人も學びて後にこそ、誠の德はあらはるれ、時計の針の絶間なく、廻るが如く時の間も、日影惜みて勵みなば、如何なる事かならざらむ」。地久節を迎ふるに當り、此の御歌を記すのも決して無意味で無い。皇后陛下が九重の雲深き邊りに日々執らせ給ふ隱れた御起居は、實に國民の母として相應しく氣高いものがある。殊に其御入内前後の御心事は、今日の年若き女性に敎ふる所決して尠くないと思ふ。

英國では、千九百二年以來、メース伯爵の發意で、毎年五月の二十四日に「國祭日」としてヴィクトリヤ陛下の御誕生を紀念し、殊に陛下の御事蹟を演述して專ら國民性の發揮に勉めて居る。我が地久節も、どうか斯くありたい。

ゆきあたりばつたり集

内ケ崎作三郎

十二、オックスフォードの金剛山

これはあまりに出し拔けの題の樣であるが、いはれを書けば何でもない。當地にヘブライ語の一老學者がゐる。イスラエルの歷史や宗敎にかけては中々有名な人である。もう六十の坂を越したが、一向角だゝず、碎けた人で、時折、講義にことよせて娘さんの自慢などをせらるゝ方である。いつか日曜の午後の茶に招かれて行つたが、ヘンリーと呼ぶ十二歲かになる子息さんが誠に可愛い少年である。色々話しをしてゐる中に日本の錦繪の事を語り合ふと先生いかにも欲しそうになつた。そこで二三日過ぎてから三枚續きの見事な繪を贈つた。楠正成が後醍醐天皇の鳳輦を迎ふる所の繪である。黑の衣帽子と緋おどしの鎧の對照はまことに美はしい。ヘンリイは大に滿足したとみゆる。早速禮狀をよこした。自分の室の壁に留針で掛けてあるとかいふことをかいてある。序に御願ひがある。それは自分の庭に自分が拵へた小い築山がある。友人達に思ひ〳〵の名をつけて貰つた。君も一人の名付け親になつてくれまいか、幸ひ目下はクリスマスの休暇で御暇であらう、すぐ名を送つて下さいとねだつてある。そこで僕は正成の物語りを手短かにのべて、彼が籠城したる金剛山の名こそふさはしかるべしといふてやつた。これからオックスフォードに金剛山といふ名所がふゑたのである。しかしこの名所は秘密な家庭的のものなれば好奇心に富むアメリカ婦人の見物連中も容易に見つけることは出來ぬであらう。

十三、裝飾美術の日英同盟

交通の便利につれて凡てが世界的となつて來た。日本の風

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

俗習慣が歐米の感化をうけてゐるごとく、又歐米の草花が日本の花園に移殖せられたるごとく、歐米にもいくらか日本趣味の影響をみることが出來る。先づ第一に指を折らねばならぬのは日本畫の影響であらう。これは大問題であるからこゝにはいはぬ。第二に數ふべきは日本の澁い趣味、ことに色彩の澁味が歐洲の家具、とりわけて、客間の家具に多少の感化を及ぼしたことである。一昨年の秋セント、ペーテルスブルグにて今は故人となつた長谷川二葉亭主人と半宵の清談を試みた時にも同氏がこれに言ひ及ばされたと記憶する。丁度當時露京に萬國家具博覽會が開設中であつたのだ。長谷川氏は是等の家具に著しく澁味が加つた。これは日本美術の影響だらうといはれた。ベルリンで秋季美術展覽會をみたが、案内してくれた山本久次郎君が、家具部の出品を指して、かゝる澁味の色が裝飾に用ゐらるゝに至つたのは近頃である、これは日本の影響だと申された。同君は裝飾術の專門研究者である。そのいふ所は確かにより所があるのである。一體これまで歐洲の客間の裝飾は大に英國の感化を蒙つたものであるそうな。陰欝なる空と驟雨の多い天氣とに年中苦められてゐる英人は、家庭の快樂によりて天然の逆待を征服せんと試みた。上、中、下の階級を問はず、英國の家庭の客間はまことに氣持よく又見事に出來てある。外部の陰氣との對照にキラ〳〵した色が多い。火爐の附屬品や額椽や瓦斯や電燈類の諸機械に至るまで燦爛たるものが多い。而してこの色彩は矢張歐米を風靡したのであるかもしれぬ。しかるに日本の色彩がいく分かこの間に加味せられ、調合せられんとしてゐるは裝飾美術上の日英同盟とも申すべきか。

十四、提灯の光にはゆるクリスマスの唄

もう一つの流行品は竹行李である。これは何時頃からの輸入か知らぬが、安くて便利なので、中流以下の婦人が旅行の折になど提げてあるくのをよくみる。勿論海外旅行に持ち出す場合は皆無であらうが、一寸旅行をするには存外便利であるに違ひない。試みにロンドンの北方の停車場、即ち、リバプール街とかコーストンとかパデッグトンとかのプラットフオームに行つてみるならば必ず竹行李を提げてゐる婦人の幾人を見付くるは疑ひない。柳行李はあまり見ぬ。これは高價のためであらう。至つてガサツな竹行李を細い皮で括つてさげて歩くのをみると餘り調和がとれてゐぬが、とにかく日本品の流行は結構である。しかしこの頃は獨乙や印度邊にて模造品を作つて、日本品を壓倒しかけてゐるといふ。これに次いでの流行は酸漿提灯であらう。昨年の夏であつた。ウース

ター學院の評判な庭園の一隅で屋外演劇があつた。校庭の自然そのものを舞臺としてモリエルの喜劇をやつた。これは役者が同學院の特許をえて演じたので、普通の相場の切符を賣つて公衆にみせたのである。實に面白い思付きである。役者は緑樹の陰に演じ、觀客は芳草に座してこれをみる。自然と藝術の配合はまことにいみじいものであつた。入口の左右の大木の枝には何百といふ酸漿提灯が吊されて景氣をそゐてゐつた。これは日本流のイルミネーションである。しかし注意してみると、獨乙製の模造品らしかつた。去年のクリスマスの遊戯會が一夜某教授の私宅に催された。風さむく、星のキラ／＼する夜であつた。所々にクリスマスの唄を歌ふ貧兒の聲が聞ゆる。大きなヴアヨーリンを持つた男を先達に一隊の唱歌者が靜々と瓦斯燈のかげを練つてゆくのがみゐる。しばらくすると若い婦人達の歌が聞ゐる。それが僕の行こうとする方面から響いて來るので、好奇心に驅られて急ぎ出して、とある角を曲ると、八九名の婦人達は一人の天主教の僧尼を圍み、携帶用の小風琴にあはせてクリスマスカロルを唄うてゐるのであつた。多分天主教徒の經營してある貧民館かなんかの婦人連であつたらう。寒い夜氣を通して樂しい唄が四隣にひゞく。しかし唄手は手に／＼彩色したる提灯を揭げてゐた。その配合は可笑しくもなく却つて上品にも見えた。僕は遊戯會に行き屆かぬ前にクリスマスの氣分を與へなれたことを喜んだことであつた。

十五、天晴れな菊の花の外交振り

當地大學附屬植物園に日本の植物が二種ある。椿と山吹とである。二つとも石壁にくつつけて植え付けられ、枝も針にて押へられて左右に平たくくつついてゐる。椿の一番長い枝は丈も延びてゐる。山吹のは一丈五尺も延びてゐる。これは氣候のためであるか、培養の方法宜しきをゐてゐるためか、それは僕には解らぬ。外にも日本産の植物があるかも知れぬが、未だに見つからぬ。それで植物の方面に於て日本の勢力は一向振はぬ樣であるが、こゝに除外例がある。それは菊の花である。菊の英國に輸入せられたのは何年前であるか、未だ調べてみぬが、とにかく非常な流行である。花が美はしく氣高いのに加へて外の花が咲かぬ秋より冬にかけてその麗姿を示すのが、英吉利人に寵愛せられる原因であらう。中流の家庭にては小さい溫室の中にて育てあげる。十月の末から咲き出して一月末まで新陳代謝する。日本では十一月一杯が關の山であるが、この國にては先づ三ケ月も續く。十二月のはじめには競覽會が各地に催される。一昨年の競覽會は市公會堂に開かれた。大した景氣であつた。黄や白や緋や、樣々の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

花があるが濃褐色が最も珍重される。これは英人の濃厚なる趣味に合ふためであらう。僕等の學校を中心として考へてみても、この三ヶ月の間は食堂に白や黄の菊の花を絶やしたことはない程である。禮拜堂の聖餐臺の上に日曜毎に取り換ねらるゝ花の重なるものは矢張り菊の花であつた。クリスマスの飾りつけにも菊の花は盛に用ゐられた。美事なる花屋のガラス窓より賑かになかめてゐる多くの花のうちで菊は質に於ても量に於ても最も雄を稱してゐるものであつた。この三ヶ月の間は至る所の食堂に菊をみぬことはなかつた。日曜午後の茶會などて、菊が誘引者となりて日本に關する會話の開かれたることは珍しくもなかつた。菊の流行は英國の都會を風靡せんとしてゐる。日本でもうつかりすると菊の本場たる名譽を英國に奪はれぬとも限るまい。二月はじめより、アネモネや、水仙などが温室より、或は暖かい西南部のデボンシャー等より運ばれて來て、菊と交代する樣になつた。されど凡ての花が殆んどその清香を吐かぬ冬枯一ヶ月の間、多くのスキートヽホームを飾りつけて、間接に日英兩國の交情を暖めたる菊の花の靈に對しては祖國の人々も御禮をせずにはゐられまい。

（大坂の有宮君から「ゆきあたりばつたり集」といふ名目に對して御小言があつたが、實は外によい思ひ付きもなかつたし、實際僕の經驗を中心として行當ばつたり、ぶつつかつた事をかくのであるから、苦しまぎれに、かく命名したのでありました。しかし筆者は飽までこれでやり通さればならぬと頑張りません。外に宜しき名があらば何時でも取り換へます。讀者諸君の入智慧を拜借したいものです）。

追懷の村

田澤藤郎

ふとしたことから風邪を引いて、病褥に呻吟することゝに三週間、雪模樣の灰色の雲も、何時しか眠たい樣な長閑な色に變て來て、軒端に鳴く雀の聲さへ何となく陽氣だ。そう暫く氣がつかなかつたが直ぐ隣の稱郷寺の垣根には木爪の花が珊瑚玉の樣に可愛らしく、ふくらんで最早ポツリ〳〵と綻びかかッて居る。ア、愈々春になつたのだ。

此四週の間私は、どうして暮したのだらふ。無論初めの一週間は熱の爲に殆んど夢の樣に送つたが、後の二週間は？。私は過去の半生を顧み又大海の如き自分の藝術の將來を思ひ廻らして泣きたい樣に成つたこともある。又四ヶ月の放浪に國を忘れ親をわすれ師友を忘れ果てた、かの南洋の椰子の木陰をも思ふた。それから或事情に悶ゐて居る友や、瀬戸内海の島に母を携へて心靜かに詩情を養ふて居る友の上をも思ふた。私の思はそれからそれへと風車の如く殆んど小止もなか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つた。そして遂には廿年前の幼かりし日に立ち歸て行くのであつた。

私は生れて或る事情の爲に、さる人の内に養はれたのであるが、七ッの時に別れたきり二十六の今日まで再び其處を訪ねたこともない。ア、十九年前ー茫として夢の樣だ。併し私はどうして其を忘れることが出來よふ。今日の私の思想も感情も實は此廿年前の私にたゞ肉をつけ衣をきせたに過ぎないのである。私はこう目を閉ぢて靜かに廿年前を瞑想する時にさながら陰繪の樣にホンノリと腦裏に浮き出して見ゆる。私はいま筆をとつて此幼き日の追懷を書いて見たいのである。勿論古いことであるから薄絹をへだてゝ物を見る樣に、何となくボンヤリとして居るが、然し天地の神秘は何時でもボンヤリした狹霧の中に包まれて居ると云ふ、私はそのボンヤリした所が返つてなつかしいのだ。

小川の流

春は鶯、夏は不如歸がしきりに鳴く里と覺ゑて居る。熊本の郊外で後には立田山、前には小高き丘陵（陸軍の墓地がある）をひかへて其間に抱かれたる谷間の下立田。ア、この下立田こそ幼き私を育てたなつかしき〱追懷の村である。下立田の谷を縦に横ぎつてさゝやかな野川が流れて居るが春は霞の奥から夏は若草の緑を溶かして叢を出でゝ來ると云ふ外に何處より出でゝ何處に落ちるか知るよしがない、下立田の部落は其川に沿ふてポツリ〱と五六軒、何れも水々しき生垣に圍まれて居る、して其なつかしき流は又私の宅の横を洗ふて裏の竹籔を迂廻して去るのである。

冬枯の木立も何時しか新緑の裝ひをこらして前の丘陵には長閑な糸遊がもえる時分に成ると私は村の小供と一所に（私には女の友達が多かつた）此小川のほとりに出でゝ一面に美しき花毛氈を敷きつめた樣な蓮華草の小徑を打興じながら屢々胡蝶の夢を驚かしたこともある或は節面白く流るゝ水のほとりに佇んで李の花のをかしき樣に流れ行くを茫然と眺め入つたこともある。或は茅花を拔き、土筆をつみ、菫の花束をつくりなどして長き春日の暮るゝを打ち忘れたこともある、ア、私は春來る毎に其折の樂しさを思ひ出でゝなつかしく思はない時とてはないのである。

春が過ぎて蛙の聲が喧ましく成ると私共は愈々此小川と親しく成るのである、ア、夏の夕ー夏の夕は何處に居ても快よいものであるが、青々しい夕風がサワ〱と、稻田を渡り丘を越ゑて吹いて來ると宵の明星は今起き出でたと云はんばかりに瞬きしつゝ涼しい影を流れに寫すとき其處此處の叢からフワリ〱と丸るで人魂の樣に螢が飛び出して來る、私は

其を捕ふとして幾度水に落ちたか知れまい、然し夜は夜鷹にさらはれると云つて餘り外出をゆるされなかつた爲に夜の記憶は私には比較的少ないのである。立田山に眞つ黒な雲が湧いて瞬く隙に、ムラ〱と前面の丘陵かけて廣がり行くと直ちに電光一閃！續いて起る凄しき雷鳴に蜘蛛の子の樣に私共は家に逃げ込むのである。沛然として落下し來る白雨は地面に碎て銀のしぶきを飛し、たごろ〱と鳴り轟く雷鳴は山に反響し丘に響きて暫しは下立田の谷もどよめき渡り立山の大木も戦慄するのである、此時には何時も蚊帳をつり線香を立てゝ何とか稱名となへつゝ畏れかしこんだものだ、併し雷鳴も何時しか遠かり灰色い雲を透して太陽が烈しき光線

を潤ふた庭の面になげ初めると、もうぢつとしては居られない直ぐ樣網を抱へて例の小川に飛び出すのである、其處此處に落つる小さき流を集めて濁流は滔々と岸を洗ふて流て行く私は無中に成て網を下すのであるが、たまには鮒が這入る鰻が這入る（此時は特別に大騒ぎだ）又或時には白と黑のムクゾウ蟹がは入つたと覺えて居る、が今に成て考へれば白い蟹はありよふ筈がないのだして見ると何かの間違であつたのかも知れない。世の美しき物語や傳説の多くは如斯にして誤り傳へられたものではあるまいか。丁度此日である私は何心なくふと小高き丘陵を見上げた。アッ虹が！虹が!!あゝ私の一生を通じてかくばかり眞に虹の美に打たれたことがあらふ

か。私の小さな胸はあやしく轟いた、雨を送つた虹の照り七ツの色は光を孕んで丘の一角より天空に向つて夢の樣なアーチを描いて居る。私はイキナリ網をなげ捨てゝ一目散に丘に駈け上つて行つた、私は其美しき七色のアーチに觸れて見たかつたのである、其丘に上れば必ずや其アーチを抱き得るものと確信したのである、アヽ然し頂上に達した時私は如何に失望したらう、虹は遙か熊本の市街の方に遠かつてしかも瞬時にして消えうせてしまつた。私は悄然として歸つた。其後虹を見る毎に其折を思ひ出でゝは同時に現在の自分をつくづくなさけなく感ずるのである。私は生中學問して生中利口に成つたが爲に此壯麗なる自然に對して驚くことが少く成つたアヽ私は虹を抱かんと欲した、昔がなつかしくてたまらんのだ。宜なる哉幼子の如くならずんば天國の秘密は窺ふことが出來ないのである。

其外小川に就ての思ひ出は實に數限りもないが小作人の良ぞんが一日の仕事を終ゑて白馬を此流で洗つてやつて居ると夕日〻何時しか荒漠たる肥後の平原に沈んで名殘の光は華々しく野も山もたゞ一刷毛の茜に染めなした其美しき光景はなほ忘れ難き思ひ出の一つである。アヽ私が繪筆を握る樣に成つたのも、人一倍に田園の風光に興味を感ずるのも決して偶然ではないのである。

幼なじみ

先にも云つた樣に私には女の友達が多かつた。中にも三軒目のお房さんと云ふのが最も私と親しかつた（お父さんは陸軍の主計である）。お房さんは色の白いフク〱とした可愛らしい子供であつて年は私より一つか二つ上であつたらう。

私達二人は兄弟もたゞならぬ程仲がよかつたので人々にお夫婦さんなどゝからかわれたものだ其都度私は憤然として怒つたが實は内心では寧ろ得意であつた。

或時お房さんの宅に熊本から踊の師匠が來ると云ふので私も方々の老若男女と共に緣側に腰打ち掛けて見物した。其日お房さんは藤紫の振り袖に紅の帶を矢の字に結んで萠黄の扱帶は柔かな媚を垂れて居つた。而して可愛らしい緋の繪扇をかざして「松のみどり」と云ふのを踊つた、是は兼ね〲お房さんの得意の一曲である。室には美しき繪屛風引きめぐらし、若草の緣を思はしめる樣な青疊は如何にも快よく見ゆる。やがて一聲衣を裂くが如き撥音につゞいて「今年より千度迎ふる春毎に」と（無論私はこうだつたらうと今より追想するのである）舞ひ出でたるは天女にはあらぬ我がお房さんである、撥音はいよ〱繁く三弦は共鳴を發して樂しき調べは一時に室内に漲つて此世ならぬ夢幻の領に私を誘ふて行つた、お房

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

さんの身は春野にもゆる陽炎の樣に輕かつた而して調べに合せてなびきて返す紅の小扇は花に飛びかふ胡蝶の樣に美しかつた、私はたゞ茫然としてながめ入つた。撥音は次第に緩かに「筒井筒ふりわけ髮もいつしかに老となるまで、すゑひろきひらきそめたる名こそしゆくさめ」と胡蝶は翼をたゝんで靜かに舞ひ終つた、期せずして喝采は起つたのである同時に愕然として私も醒めた。お房さんの眞白い頰はホンノリと紅をさして優しい目は嬉しさに輝いて居る、私は此時ばかり彼れを美しいと思つたことはなかつた、而して一禮して立ち上つたお房さんはちらと視線を私に向けるや「〇〇さん中におはいんなさいな」と云ひ放つてツト障子の蔭に隱れてしまつた、多くの見物の目は微笑した、私は耻かしい樣な併し嬉しさに堪へなかつたことを覺えて居る。

又或時は私が何か過失した爲にひどく家人の怒に觸れて小雨ふる日にシヨンボリと外に立て居ると何處から見つけたかお房さんが馳て來て色々と私を慰め、自分の宅に連て行つてお母さんと一所に私の濡れた着物をかはかしたり又カキ餅を燒いたりして私を恤つて呉れたことがある、其時には私はシミ〴〵と嬉しかつた。

私は何事をやるにも大概お房さんと一所であつた。或時は村衆の中に混り手を引きあつて某邸の夜櫻を見に行つたこともある、其は闇の夜であつた、廣々たる庭には數ヶ所に篝火がたかれて、咲きこぼれんとして居る幾株の櫻花はうば玉の闇のとばりにホンノリと夢の模樣を染め出して其美しき光景は今もなほ忘れることが出來ない。

又或時は幽邃な、それがし邸の石段にポタリ〳〵とこぼるゝ椿の花を糸に貫ねて首から肩に卷きつけては互ひに嬉んだこともある。或時は又例の小川のほとりの柿林の中に座り込んでハラ〳〵と落ち來る木の葉を爭ひ取つては太陽に透して其美しさを競ふたこともある。かく書き來れば實に際限もないのである。アー歲月は流水の如く去つて相別れてより早十有九年。仄かに聞けば數年前さる養子を迎へ琴瑟相和して幸福なる月日を送つて居ると云ふことである、私は其を聞いた時何となく嬉しかつた其して彼等の前途に幸あれかしと祈つた。

其外にお雪さん（名前に似合はなく色が黑かつた）とお豐さんとがよく喧嘩はしたが私と仲がよかつた又陸軍墓地の番人の娘でお關さんと云ふ色の白い可愛い子があつたが、いやに意地ッぱりでよく私と喧嘩したものだ。かくの如く一面多くの女友達によつて優しい女性的趣味の感化を受けた私は又一面に於て男の友達から男性的惡戲の教育をも受けた。山本の善ちやん、これが最もよく私を教育したものゝ一人である。

按摩をだまして例の小川におつことそうとしたり（此時は危く痛棒を頂戴する處であつた）。或家の塗りたての土藏の壁にへへのもへしを書たり。穽を作つて通行人を落したり。竹籔の若竹をなぎ倒したり又は樒柑の木に上つて側を行くよその御隱居に青い固い奴を叩きつけたり（此時はヱライ目に逢つたと覺ねて居る）。友達と喧嘩してイキナリ鼻ツ端をなぐりつけたり、これ盡く善ちやんの教授である。

ア、此等の人は今や堂々たる青年であらう、一度逢つて樂しかりし昔を語りあつて見たいものである。ア、戀しき哉幼き日！なつかしき哉追懷の村！ア、下立田の谷!!

自然の姿

むけい

人と云ふものは　時によつては
隨分理屈も捏ねて見たいものですが
やはり　どちらかと申したなら
暢びのびして　氣輕るに
罪なき戯談でも云つたり
たまにはお腹のよれる樣なことの
あつた方が　よいものです

お父さんや　先生の前に
面と向ひ合つて　坐つてるのも
兎角　足に痲痺が　切れます
心に隔てなき友達と
昔と今と　懷舊の絲をたぐり
餘念なく　説り合ふのは
誠にそれは　心地よいものです
雜誌を開き　新聞を見るにしても
鹿爪らしい論説よりも
ついぞ　雜報や　個人消息の
肩を凝らさない情趣の姿に
逸早く目をとめたがります
これは人間の氣儘と申しませうか
云ふ人には云はして置きませうが
こゝに欺かれない人の心の
自然と云ふものがあるでせふ
文藝とか　美術とか
ヘレニズムとか　ロマンチシズムとか
名は樣々に變りますが
いづれも人間に享樂を與へ
不斷の春の光りを照らし

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

不朽の青春の香ひを薫んじて
人なき深山に庵室を結び
花なき砂漠の泉を湧かせ
どうかして人生を美ならしめ
寂しがる心を慰めやうとの
切實なる聲でありますまいか
御存じかも知れませんが
下手な話で欠伸に咽び
不覺な顏をそむけるよりは
大空高き雲雀の歌に
大空高く思ひを上げて
天つみ神のみ聲聞くのが
却つて必ず晴れ〴〵します
學者のた談義に花は咲きません
雨露の惠みに花は咲きます
私共は此理を能く考へて
花を見ても　鳥の歌を聞いても
朝日を迎へ　夕日を送つても
小供の笑顏にも　涙の跡にも
何時でも　感謝の心を起し
何處に行つても歡喜に溢れたら
嘸ぞ　うれしいことでせふ
そして　みんなと手を取り交はし
互に顏に顏を寄せて
歌つて　舞ふて見たならば
それこそ　エデンの花園でせふ

秋の姿

秋の日が　傾きかけた時
小學校の　運動場に
海老茶色の袴　をはいて
一人の女教師が　立てゐます
秋風が　塵をかすめて
彼女の袖を　動かせば
一寸向ふを　振り向きました
其後姿が　また　忘られません
どう見ても　女性は　春を過ごし
獨りで　秋風に　吹かれてるのは
何となく　女性に　似合ひません
これをしも　秋の姿と　申しませふか

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女學生方に望みたき事共二三

川島芳子

私は若い生徒さん方の御世話を致して居りますが、私が日々經驗致して參りますうちに氣のついた事を申上げて御注意を促がしたいと存ます。

此頃は何處の女學校にも、家事科なるものを設けて、之を必須科として、女子が他日家庭に入つて取るべき家政の上に必要な學科を授けて居ります。而して其の設備の上にも多くの費用をかけ、或はガスを引くとか、料理ストーブを据へ付けるとか致しまして、東洋諸國の料理はおろか、西洋諸國の料理までお稽古の出來るやうになつて居るのは至極結構な事で、女學生方のために賀すべき事でございます。大抵の高等女學校で寄宿舍の設けのある處では、當番を定めて學科として授けた家事科を、實地に應用するやうに務めて居ると承つて居りますが、其所に學んだ女學生方が卒業して專門の學科を修むるために、高等の學校に入學するものもあり、又直ちに一家の主婦とならるゝものもございますが、何れに致しても扨て女學校時代に學んだ學課が、充分に生きて働かないといつて世間で歎息して居るやうに見受けられます。誠に學事科に就いては左樣であるやうに私の經驗致します處でございます。或る女生徒が女學校を卒業した後、或專門學校に入學致しましたが、其の學校では生徒同志五六名で當番を定めてお料理を致し、一週に一度は御客樣を御招きして御批評をして頂くそうですが、其生徒自分が當番になつた時、是迄女學校時代に學んだ料理なごは少しも役に立たぬ、何のために時を費して學んだかわからぬといつて歎息して居ました事を聞きました。斯ういふ事は此の生徒ばかりでは御座いません。多くの女學生の方が家庭に入つて歎息して居らるゝであろうと推察致します。又或る者は自分が女學校に居た時はこういふ設備があつたが此所にはそれがないから、自分等の學んだ割烹は出來ないと歎息するものもあると聞いて居ります。是も亦此の女學生ばかりではございますまい。

これは如何なる處から斯うなのであるかと考へて見ますと、どうも女學校などで割烹の實習を致します時に、一時に二種類も三種類も一所にさせる、そして又一つの事をさせるにしても或者は一寸大根をきざむとか、一寸菜を洗ふとかいふ風にし、又教師が一人でして見せたり、又二三人の生徒が致して後の者は大勢ぐるりに立つて見て居るといふ工合で、一人でまとまつた事をするといふ事が誠に稀でございます。そして又餘り設備を完全にし何によらず便利をよくし、一つのねぢ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

をねぢると、水が出る湯が出る。七厘をあふぐ事も薪を燃やす世話も入らずに、直ぐお料理が出來るといふやうな工合であり、又そういふ設備を致したいと望んで居らるゝ處も多いよふに見受けますが斯ういふ風であるから、さあ一人で實地に致しましよう普通の臺所でやろうといふ時に、さつぱり獨り立が致しませんと存ます。何か一つ仕掛けてもどうだろう斯うだろうと考へて躊躇致して居りますうちに、時間が立つてしまうといふ有樣でございます。口には随分立派な議論も致します、可成り上手に英語も話せますが、お料理の獨り立ち處か箒の使ひ方や雜巾のかけやうさへ出來ない者も澤山あるやうに見受けられます。是は失禮ながら女學校當局者の御考へを願ひたいので御座いますが、是と同時に女子を女學校に遣はして居らるゝ親御等も、內の娘は女學校へ上つて居る間は、何にも家事向の事は學課が忙しいからしなくてもよろしい、又出來ないものだとあきらめて入らつしやらず、又娘さん方御自分も自分は學問をしてをるから掃除や雜巾掛や臺所の仕事は知らなくてもよい、そんな事は下女の仕事であるなどゝ濟まして入らつしやらないで、女は何んな境遇に居つても、家政に關係しない譯に參りません。女でこんな事をしないのは恥であると御心掛けになつてなさらなければ、後で随分御不自由を感ずるやうになり、余程御困りになるやうになりますと存ます。それでどんな事にでも自分が手を下してなすといふ御心掛けがあつてほしいのです。又どんな處でも、どんなに道具がなくてもあるもので間に合はして立派に食べられるものを調理する事を工夫なさるやうに願ひたいのでございます。

それから又私の經驗では、昔の方は一體に辛抱がよい、我慢が強くて少々の病氣でも自分て推し通して居て、床をのべて横になるといふ事は實に少ないやうに思はれます。余程の事でなければ醫者にかゝるといふ事はないやうに存じますが今の若い方は一寸頭病がするといつては醫者、一寸風引といつては醫者といつてさわぐ、余り辛抱がなさすぎる樣に思はれます。前夜は大病人で醫者を迎へた者が、翌日は敎場へ出で普通にお稽古をして居られるといふ有樣で、随分我儘な擧動かと思はれる事も度々あるやうに聞いて居ります。英國では女子は必ず一通看護法を學び大抵の事は家庭で手當をして余程の事がなければ醫者にはかけないといふ事を聞いて居りますが、實に味ふべき風俗であると存ます。あなた方はどうか充分我慢のつよい辛抱のよい方になつて頂きたいのでございます。

それから今一つは學校で學ぶ學課は、皆な聯絡して居つて、皆日常の生活に深い關係をもつて居るといふ事を御考へになつて頂きたい。試に物理化學がどの位日常の生活に應用されて居るかを御考へになつて、決して敎科書の上の物理化學でなく、書物の上の歷史でない。昔の人の申されたとうり活眼を以て活書をよむ方々になつて頂きたい。さうすれば日々の學課は實に生きて參ります、從つて興味をかんじて參ります、さうすれば自然に書物を讀むやうになります。どうも日本人には讀書の癖がないといふ事は識者の歎ずる點でございますが女子が殊に然りですどうか今の女學生方は其の癖を學校に入つしやる間からつけてをいて讀まないでは居られないといふやうになつて

頂きたいのです。其の點に於ては西洋人は中々感心なもので、大人も小供もよく讀みよく夫を使ふて居ります。どうぞあなた方は毎日の學課にばかりかぢり付かないで、廣く讀み廣く智識を得るといふやうに務めて頂き度いのでございます。

患難に處するの心得

海老名みや子

▲案外苦しい内情

今年は餘寒が長くて、兎角お花も後れ勝ちでありまして、まだ〳〵と思つて居ります間に、天候回復とともに忽ちにして滿都は花と化してしまひました。誰も彼も其香に醉ふて、やれ上野、墨堤、小金井と騷いでる間に、もう新綠の陰懷しい頃となりました。實に世は變轉極りなく、久しく見失つた春の行衞が、忽然として顯はれて來るかと思へば、復いづこへか消ね去つてしまひます。身はとこしへの春とおもつて花に浮れ蝶と狂ふ間にいつしか淋しい秋風は身の邊に吹いて參ります。いや人生は秋風位ではありませぬ。紅葉よ月よといつてる間に忽ち木枯は吹て參ります。此木枯はまことに慘憺たるものでありまして、錦と飾つた木々の葉も一夜にして拂ひ盡され、見るかげもない姿となつてしまひます。幾千萬の人の中果して幾人が此運命をのがれ、永久の春を樂しんで、一生を送るでありましやう。人間は悉な此苦しい運命を擔はねばならないのでありますまいか。マア皆樣お近い處を見渡してごらんなさい。何處何如なるお内にも、多少此悲雲のかゝらぬ處はないではありませぬか。あの内こそはたらひにたらふて望月の欠けたる事はあるまいと思つて能く其内情をきいて見ますと、實に案外、やつぱり人の知らない苦勞に、身のやつれを覺へて居られます。實に人生は悲慘です。然ればこそ昔から世を厭ふて、墨染の衣に樣をかへたり、又はや手廻しに我と我生命を絕つ人が幾千人幾萬人あるか知れませぬ兎まれ角まれ私共は、此運命を荷ふて行かなければならないのであります

悲慘なる二婦人

未だ春の名殘も消へない今日此頃私がこんな悲哀な事を書くに至りましたにはそも〳〵譯のある事であります。私は此春いろ〳〵の悲慘な出來事を見聞いたしました。わけても私の心を打ちましたのは、私が十數年前から、ある者を通して陰ながら知れる二婦人が相前後して、此世を辭せられた事であります。私は此二婦人と年齡に於て、又ある事に於て、境遇を同うしてをりましたので、ある時は其人々の前途を祝し、ある時は深き〳〵同情の淚をそゝぎました。此人々はいづれも前途有望な數人の子息を有して居られました一人の方は長男　次男、三男と、中學、高等學校、大學とまで進まれたのを、不慮の災難の爲に失はれました。他の方も同じく秀才と呼ばれた子息が、一朝病を得られまして、手に手を盡された甲斐なく、終に永遠の旅に趣かれました。剩さへ其三男も亦病を得て天賦の才能を延すの暇なく、今も尙病の床に呻吟して居られるそうです。此兩婦人は立派な敎育もあり、相當の修養もあつた人々だと思ますが、あらゆる喜望と前途の光明を期し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て居られた愛息等に先立たれ、腸を斷つの悲みにあひ絶望の極終に身も心も碎けてしまつた事と思ひます兩家ともあとには數人の幼兒等も殘つておられます。世に二人となき此慈母にはなれて、春雨のそぼ降る此頃悲哀の涙にかきくれて居られましやう何んと悲慘ではありませぬかあゝ何故此二婦人は斯うあはたゞしう逝かれましたらう。

▲信仰の力

若し此二婦人にして、平素天父の御愛を信じ、この堪へがたい悲痛も亦天父の大御心より出でたるものとして、これを受け、必ず之れ等の事によりて、神は何ものをか貴い教を授け給ふと信じて、慈愛の御手にすがられたらば、或は此悲痛の試みに堪へて　十年二十年若しくは三十年も生き延びられたかも知れないと思ひます。それはその筈です。かゝる悲みの出來事にあひました時、信仰なき人でありますれば直に失望落膽して、天を恨み世を墓なみ、思は暗から暗を廻つて出る處を知らず、愛の底深く沈み行くのみであります。見るもの聞くもの皆悲しみ

の種のみで、只思ふ存分哭て哭て、幾分心を靜めるより道はありません。さらずばこれ天命だと無理往生に明らめて、心を安めんと致しますが此天命とは實に冷かな淋しい意味でありまして到底此天命の眞の意義を解釋しなければ、安心の出來やう筈はありませぬ。死別の情に何の變りがありましやう、只我に信仰があれば、こんな場合に接しまして、苟にも神を恨む樣の念は起りませぬ。又無理往生にあきらめをつけるでもなく、何か天父には深い思召を以てかゝる悲痛の實驗を我に與へ玉ひました事を信じ、よしや我にとり二つとない寶も、天父の御命なれば其御手に任せまつりて、我心は其寶のある處にかよひまして、おのづから世の塵埃をしり、身は神々しひ聖徒と化するのであります。其人の心が汚がれた下界を離れて上天に通ふ丈それ丈に美くしくなるのですから、此貴い試煉によりまして幾層の光榮を其人格にそへる事となりましやう。かくてこそ此世に在つて各自が悲しい苦しい實驗をしなければならないといふ理由も分りましやう。世に悲しい事の數ある中に、慥かに死別は一番悲し

い事であります。わけても親として我子に先立たれる事は實に堪へ難ひ事でありますが。まだ此悲しみに勝る悲しみが世にはあります。所謂

▲死ぬに死なれぬ
といふ苦痛

です。昔時封建時代に男子は一刀の下に女子とても懷劍一つでどんな悲哀も難問題も解し去つたのでありますが、これは一面慥かに救であつたかの樣に考へられます。ア、あの時代が羨しいと思ふ事もなきにしもありませぬ。けれども、これは決して眞の救ではありませぬ。死は安く生は難しで、一思ひに刃に伏してしまふより、其悲しいつらひ場合を生のびて、神意を全うする事はどの位六ケしいことであるか知れませぬ。けれども人は此六ケしい道を行かねばなりませぬ自ら省みて改むべき處は潔く改め爲すべき處はどんな苦しい思も忍んで爲し、しかして神の大御心を全うすべきだと思ひますこの心得を以て如何な險しい山坂でも忍びに忍んで只一筋にわけ登ります時は、いつかは絶頂に達しまして、ハツト我前

を見渡しまするど、妖雲いつしか去りまして天つ日ののどかに照れる廣やかな前途を見ることが出來やうと思ひます。實に終りまで忍ぶものは幸なりとは此處の事であらうと、つく〲感じます。

曾て友人が其姉君の事を語られましたが、此方は年若うして最も六ケしい家庭には入られました。二十幾年が間千辛萬苦をして五十といふ今日に至り漸く勝利を全うせられたそうであります。かねて儒教を以て身を修められ、其れによつて萬難を排して來られたのでありますが、其樣や、恰もいばらや白茅をふみ分け辛じて通り拔けたといふ風で、あり〱と其疵の痕が見へて如何にもいたはしく感ぜられる。若し彼の人が生ける宗教の力によつて、この生涯を通られたとすればどうであらう。過來し方をふり返つて、ア、あすこに見殘した花がある、かしこの景色はごふであつたと其思出の數々も却て神恩の豊かなるを感じて更に其苦心の跡を留めぬであらうとはなされたのをきゝました。その時、私はア、實にそうだと感じまして、端なく他の一例を思ひ出しました。

▲信仰によりて慘境を切り拔けし老婦人

この人も年若い時から晩年まであらゆる不幸辛酸を嘗め盡した人であります。同じく儒教の力によりて奮闘し〱て來られましたが、六十の坂を越して基督教に入り、初めて天父の大御心に觸るゝや幾十年が間鍛ひに鍛つた鐵石の心は恰も春の光にあつたやうにとけて愛の泉となりて流れました、其後も不幸は繰り返し〱其老體を襲ひまして、到底普通の人間では耐ふべくも思はれませぬ程ですのに、此老女史の奮闘の目ざましさは誰も感歎しないものはありませんでした。年六十を起されてから四人の孫子女を次々に失くされました。終には最愛の一人子にまで先立たれました。誰しもこんな不幸に出あひました人は身も心も疲れ果てゝ自身も其跡を追ふか、さなくば失望と恨みによつて自ら夜叉となり、涙はかれ心は氷と冷へまして、鬼々敷老人となるのであります。然るにこの老女史は此悲みにより一歩〱天父の御もとに近づき、我最愛の子等は天父の御手に委ねまつりて、自らは此世ながらの天國に住する心地で、一人の孫を失へば數十人の孫を得るといふ有樣で、廣く其愛を灑がれました。其結果として七十の高齡を達せられた比一つの女學校を設立されました。幾多の困難を經て十年の後女史が永眠せられます前には、既に堅固な基礎も据りまして、數百の少女等は西より東より老女史の膝下に集ひ來りて、其敎訓を受ける樣になりました。老體ながら生徒と起居を共にし、食卓を同うせられまして、子女等に接する樣は宛然老祖母が多數の少女等に取り繞れてる樣です。彼等の病める時に、彼等の悲しめる時に、彼等の怒れる時に、彼等の心ねじけたる時に或は慰められ或は云ひ聞られた言の葉は、其膝下を去つて十年十五年の後も尙ほ心に刻み込まれた樣で、思ひ出す毎に嬉しさと懷かしさに涙さしぐまると此敎養を受けられた人々から能く聞く事であります老女史が詠まれました歌に『手をりつる花はもろ手にあまれども、いづれを野邊にすてゝかへらん』實にこれ女史の眞情を表はしたものだと思ひます。又『日は暮れてみち遠しとは誰かいふ勇みて進め天

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の正道』と歌はれました。屈せず撓まず萬難を排して進まれる其意氣の盛んなこと、これが八十の老人の口から出たものとは驚くの外はありませぬ。實に此老女史は日進月歩の人でありまして。其考のいつも若々しさ、とても老人と對する樣な感は致しませぬ。何事も新しい方面を開いて、それに向つて努力してゆかれます。パウロが申しました『我れ後ろにあるものを忘れ前にあるものをとらんと目的にむかつて進むなり』とはこんな人の事であらうと思ひます。又どんな困難も悲しみもこの人の爲には悉く働きて益となります、眞に此世に於る勝利者といはなければなりませぬ。

扨此力は何によつて來るのでありましやう。私は信仰によつて來るのであることを斷言致します。皆樣此困難な悲哀多き世の中を渡りますに、此信仰なくて行けましやうか。百萬の寶も我にとつて何の力もない時があります。又親も子も、夫婦も兄弟も、又朋友も、互に永遠の慰籍者、又保護者となるわけには參りませぬ。時には赤裸々の我が此淋しいすさまじい世に只獨りある心地がするではありませぬか。畏くも、我　國母陛下の御歌に『獨りのみ思ふ心のよしあしを照しはくらん天地の神』實に此獨りのみ思ふ心の通ふ處は、只天地の神であります。こゝに至つて疲れた我は忽ち元氣を得、四圍の光景一變しまして、此世は決して沙漠でもなく、又修羅場でもなく、萬物生々として隈なく天つ日の照り渡つてる樂土である事を覺ります。凡ての生命を拂ひ去るかと思ふ樣な、すさまじい木枯は復來ん春の準備に外ならないのであります。『蓋患難は忍耐を生じ、忍耐は練達を生し、練達は希望を生し、希望は羞を來らせざるを知る。こは、我等に賜ふ所の聖靈によりて、神の愛我らの心に灌げばなり。』との此實驗をもつて、世に立ちます時には、私共かよはい女子といへども多くの患難に打勝ちまして、光榮ある又眞に幸福なる生涯を送りて、天父の大御心を全うすることが出來ると思ひます。

少年と讀物

杉村幹

少年に感化を與ふる事の最も多いものは、其周圍の友人と、讀書とである事は言ふ迄もない事である。殊に少年時代に讀んだものは、非常に深き印象を與ふるものであつて、小供が無意識に寢ころびながら讀んだものが、或は其人の一生の運命を支配するに至らぬとも言はれぬのである。世路の辛酸も、復雜なる人世の事も、何も知らぬ單純な頭腦に、不圖這入つた第一の感銘は、永遠に追懷の種子となるものである。試みに、予の經驗を言ふと、十二の年に、當時博文館から出た「少年文學」と云ふもの〻中に、嵯峨の屋おむろの書いた「姉と弟」と云ふのを讀んだのである。此本を見て、予は文學とは何であるか、小說とは何であるかを知らぬ頭に、唯々何とも言はれぬ、面白いものだと感じたのである。此作中の少年雪野潔の境遇に同情して、自分も其人であるかの如く、卷を掩ふて泣いたのである。それから、此種類の本が無暗に面白

くなつてしまつた。今は沒趣味な法律經濟を學ぶの身となつたけれども、一時は文學を以て世に立たうかと思つた事もあつたし、今でも、猶時々の作物の重なるものに付、必ず一通り目を通す樣になつたのも、言はゞ此「姉と弟」とが今日の惰性をつくつて與れたものと思ふ。卽ち「姉と弟」とは、予が文學に對する鑑賞の初戀であると思ふ。

斯く讀書と少年との間に、重大なる意味を有するならば、家庭として少年の讀書については、餘程深甚なる注意を拂ふの必要があると思ふ。小供は小供らしく、純潔に、無邪氣に、圓滿に育つるの必要があるならば、其伴侶としての讀書に、大なる注意を拂ふの必要がある。予は此見地より見て、今日の新聞紙なるものを未成年者の手に觸れさせたくないと思ふ新聞の三面記事なるものは社會の裏面、社會の闇黑面のみを見るの傾向があるのである。强盜とか、姦淫とか、慘殺とか云ふもので滿たさるゝのである。かゝる事を讀んでも、何の役にも立つものでない。此等の記事は、時として摸倣性を有する者に取りては、却つて犯罪の手引ともなり、又犯罪の動機ともなるのである例へば魔窟攻擊と云ふ目的で賣春婦の内幕などを書く時には、是れが遊興の場所を教へる事となるのである。先年米國にあつた、ホワイトチヤペル事件であるとか、我國の稻妻强盜事件などは、一度其記事が新聞紙上にあらはれてから、摸倣者が盛に出でゝ、一年内に同一犯罪を見る事が、數件に及んだと云ふ事である。元より、新聞紙は社會の出來事を報導するのが、主たる目的である以上は、此等の記事の掲載も、又已むを得ぬ事もあろふし、今日道德の標準が低い時代には英國で行はるゝ樣に、新聞組合なるものがあつて、社會風教に害ある記事は、是れを掲げず、若し之れを掲げた時には、組合で制裁を加へると言ふ樣な工合になるのは、まだ〳〵遠い未來の事であるからいつそ思想の固まらぬ少年輩には、家庭が監督して、此れを讀ませぬ樣にするのが、最も策の得たものと信ずるのである此意味に於て今日坊間に一種の勢力を有する「サンデイ」とか「東京」とか「無名通信」と云ふ樣な雜誌も、家庭の讀物として排斥するのである。勿論一概には言はれぬが、學者や、敎育家などの子供の、割合に出來がよく、成上りの紳士などの子に碌なものの出ないのも、種々の原因もあらうけれども、又此邊の事も與つて力ある事と思ふのである。

この間、或友人との話に、斯ういふ事を聞いた。ウヰリアムといふ宣敎師が日本に在住して、日本人の厨夫を一人使つて居たが、此厨夫に肉を買ひにやる時、いつも惡い肉ばかり買はせたものだから、厨夫先生、終には憤り出して「こんな惡い肉ばかり買はせられてはきまりが惡いこんな吝嗇な主人の買は御免を蒙る」とそれとは言はずに主人に向ひ暇を求めたその時主人は、さうかと云つて其の願を聞入れた後、二百圓ばかりの金を取り出して「これは、お前が將來の爲と思つて私が良い肉を買う處を惡い肉を買つて儉約して置いたものだ」と言つて與へたので厨夫が初めて主人の遠き慮りを知り大に愧ぢ入つたと、此の話は自分には初聞であつたが、此の位の深慮と親切を以て人を使ふものが幾人あらうかと感心したのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

人生難に處するの道

海老名彈正

一般に人生難と云へば自然に存するものゝ様に思ふが、實は自ら作り出すものが多い。例へば釋迦は、生老病死の四苦に世の無常を感じたと云ふが、其の病死の二苦は何か。大抵は自ら作り出すものである。之に反して植物の如きは天然の儘であるから、割合に美しい姿を保つ事が出來るのである。猶一歩進んで、社會の状態に就て考へて見るに、大抵の人は生活難は社會組織が惡いからだと云ふ。成る程、今日の社會には不完全な所もある。併し今日の儘でも、人々の、心が改まれば幾多の困難を免れる事が出來る。人は自分で難を作つて置き乍ら、天を恨み人を咎める。自分が惡かつたと氣が付くのは事が過ぎた後である。それは既に遲い。百法盡きて、人に頼み廻つても、追ひつく事は出來ない。例へば病氣になる早く良醫に見て貰へば善いのに何時迄も打ち棄て置く。而して仕様の無い様になつてから、大學などへ持つて行く。其時は十中の八九は駄目である。人生には恁う云ふ風な所がある。世の中には感化院を作る者がある。孤兒院を作る者がある。それは善い事には違ひない。けれども最上の事ではない寧ろ姑息たるを免れない。人の心が善く社會の組織が善かつたら強いてこんな事はせずともよい。然るに如斯爲さゞるを得ないのは人がかくするのである。

人生難と云つても自己一身の事は案外やすい。心掛次第で怎うにでも成る。六ケ敷困難なのは自分の勢力範圍外に存する他より出來た事である。例へば親か禍を引き起した時は怎うであるか。夫が作つた時は怎うであるか。夫婦は一體であると云ふものゝ心は中々一つになれぬ。又切つても切れぬ友が成した時に、離るゝ事の出來ぬ團體の成した時に、何とも仕方がない。殆んど處するに道がない。自分の意志と違ふからとて、振り棄てる譯には行かぬ。それをぢつと忍んで行く酷さは並大抵の事ではない。けれども不完全の社會にある間

はかくせねばならぬ。

思ふに人生には二つの方面がある。一は我々の眼に觸るゝ日常の生活で、極く淺い、誰もかも經驗して居る所である。今日は樂しいが、明日は分らぬ。或は浮み、或は沈む、有爲の世界である。又一つはも少し高い、眼に見ゐぬ方面である。一口に云へば宗敎的の生涯である。一方は變化限りなきもので、他は波立つ浮世は變らぬ次第を保つて居る。言葉を換へて云へば一は小我の世界で、一は大我の世界である。移り變るものは或は悲しみ、或は喜ぶ、或は榮へ、或は衰へ、取りとめがない。そこを多く人生と云ふ。けれども人生にはもつと高い所がある。波の生活ばかりではない。潮の生活がある。波は風のまに〳〵に動いて止まない。東に行き、西に行き、北となり方角はない。今日は西にある。けれども明日はどこに行くやら分らぬ。けれども潮には道がある。早いことは早いが、漂ふのではない。過去は何千年の古より未來は何千年の末に至る限りなき生命がある。幅も厚きも限りがない。唯長いと云ふのではない。所謂宇宙的生活である。即ち絶ゑざる神と交はる生活である。古の君子は獨りを愼むと云ふたが、これ程廣い所はない。小我の生活は孤獨である。けれども大我は常に凡ての方面に關係して居る。否天地の生ける神に關するが故に世界其物よりも大きいのである。基督が今宵汝等盡く我を棄つ、されど父我と居り給ふ、と仰せられた如く、無邊に列る光榮がある。寂しい孤獨な生活でなくて、賑やかな生活である。我々は明に此生活の二面を知る必要がある。否、これを知ると共に進んで取らねばならぬ。今日褒められ明日は譏らるゝと云ふ様な、世界に何が止るか、止るものはない。人生は時計の針の如く、廻り廻つて限りがない。時計は猶止むる事は出來る。けれども時は終に止むる事が出來ぬ。

三十四五年前の事、自分は學窓の人であつた。或時明日は午後四時から破天荒の漁獵に出掛ける計畫があるといふので舍生は皆待遠うでたまらん。二時には課業もすんだ、生徒は騷ぎ出した。其時舍監をして居た男は氣のきいた人であつたから、グル〳〵と針を直して、さあ四時になつた。行かうと一同をつれて出た。けれども日はまだ中天を去つたばかりで、時機は未だきてゐない。

さらばどうして大我を明かにするか。手近い所から云へば先づ品格を明にする點にある。僞で堅める様な事では眞の元氣は出て來ない。必ずや其終りは悲しみと失望である。年老いて死ぬまいと思つたとて、死なぬ譯には行かぬ。大隈伯の云ふ如く百廿五歳迄生きたからとて知れたものである。けれども形骸を脫して見ると、死なぬものがある。それは何かと云へば我々の品格を作る事である。精心の深い所を磨いて行けば、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

段々と光を增して消えざるものとなる。孔子が七十にして則を踰えずと云はれた、あの言葉の中には作爲の跡もあるが、實に平凡なる道學家の終局にして偉いと云はなければならぬ。佛教で云へば涅槃、寂靜、或は寂然不動と云ふ所である。即ち小我の世界を脱かれて、大我の中に生るゝのである。如斯變化限りなき永しへの春に入らるゝと云ふは人生の貴い所と云はねばならぬ。始終其處に眼をつけて置けば、老の至るを忘れる。基督教の老人が割合に若いのはそれである。淺墓に神の子だと思ふからばかりではない。高きを望んで行く處に無限の力がある。唯老いて後の道とか、死に對する覺悟とか云ふのは雜作ない。快く死にたいと云ふなら藥を飮んでも出來る。眠つても死ねる。けれども我々は死ぬる時、涙を振つて死ぬ事もある。腕を扼して死ぬる事もある。必ずしも泰然自若として死する必要はない。絶望すれば泰然自若として死ぬる。日清戰爭の時、清國の捕虜は泰然として死んだと云ふ。それは偉いからではない。絶望して居るからである。新島先生の辭世の歌には「吉野山花咲く頃は、朝な、朝な、心に懸る峰の白雲」とある。實に然うある筈だ。志未だ成らずして、死する。これ程遺憾はない。基督は我が神〳〵何ぞ我を棄て給ふやと仰せられたと云ふ。誠に同感に堪えない。年は未だ三十である。非常な大望を抱いて居る。而かも弟子は不甲斐ない。其時に當つて誰か泣かざるものがある。母親が一人立ちの出來ぬ子を遺して死なねばならぬ時、天我を棄て給ふか、天我を棄て給ふか、と云ふのが惡いか。それなら此聲は絶對絶命か。否其處にはまだ御心に委せ給へといふ信賴の餘地がある。生きたいと思ふが、出來ない。そこで神に托して死ぬる。其悲劇が無いなら人生には興味がない。

巨萬の金を損した時、友人から托された金を以て失敗した時、困るのは自分獨りじやない。友も亦これが爲に立つに立たれなくなる事がある。其時に嘆きは無いか。我が苦は忍ぶ可し。人の苦は忍ばんと欲して、忍ぶ事が出來ない、多くの人が死なうかと思ふのは無理はない。けれどもそれで止るかと云ふと然ふじやない。氣の毒ではある。けれども不正でなく、義を以てやりそこなつたなら處する道がある。よし又不正であつても發心すれば道はある。僞に僞を重ねて、ごまかす事は斷じていけぬ。開かんとする大我を亡ぼしては救はる道はない。どんな苦があつても、信仰を起し、神に願つて、力を引き起さねばならぬ。仕樣がないから許して呉れ。惡かつたと云つてよい。どこにも、此處にも、頭をさげる外ない。かくすればよしや失敗しても人格は落ちない。財を以て償ふ事は出來ずとも高いものを朋友親族に分つ事が出來る。やりそこなつてもよい。目前の事のみ考へるの必要はない、區々

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の小策を弄するよりもやりそこなつた、と云つて凛として立つ。その方が宜しいじやないか。正義公道を踏んで、強健なる品格を作つて、行くなら小我の上に蹉跌しても神は棄て給はぬ。頭は上らぬかも知ぬ。けれども大我の光明の中に生きる。若し移り變るのみが人生なら咲く花の散り行く様に又と返らぬ。併し天地に恒久なるものゝ無い筈はない。二代目三代目が出來るに違ひない。それが知己を千歳に求むる所以である。我々は波の世界に於て破れても　潮の世界に於て、神の力の動く所に於て、生ける。困難もある。心苦もある。それは疑ふ可らざる事實である。けれども天が我を育て給ふと、見るなら信仰が湧いて來るじやないか。幸にして此信仰があるなら、火も燒く能はず、水も溺らす可らざるものを持てる、卽ち眞我である。それを自覺し、それを明にすれば何の損害がある。神我と共ならば誰か敢て敵せんや。信ずる者に敵はない。基督敎徒には十字架がある。人生難がある。基督はこれが爲に死し給ふた。そこは眞に悲慘の極みである。けれども復活がある。彼は小我に死して大我に生きた。彼を殺した釘も、鎗も、小なる我を殺した。併し神に生きる大我は釘づけにはされない。基督は生きて居る。御同樣は今日の社會に立つて泣く。けれども永久の淚ではない。膓を斷く。けれども絕望じやない。怎う云ふ事があつても我々は大我に生きねばならぬ。これより外に人生難に處する道はない。

一口噺

小供「かあちやん、これはたちや？」

母「エー、たぢやですよ」

小供「そう？たちやは御飯なら、たばやは、何？」

✿　✿　✿　✿　✿　✿　✿

小供「たさうさん、空中飛行器を拵へて頂戴れー」

父「坊やが大きくなつて、大學へ行つたら、獨りで拵へなさい」

小供「それでも、大學に行つたら、たもちやはいらなくなるから今拵へて頂戴よ」

正誤

・前號處載「古代獨逸人の間に行はれし一夫一婦の美風」中左の通り正誤す

ゲルマンはゲルマニ

入頁上段終りより二行

亞米利加は、亞非利加

雜錄

▲不良少年と家庭

伊澤修二

昨今都鄙到處に不良少年跋扈の聲を聞かざるはなく而も彼等の多くは各自一團を組織し或は白晝兇刄を袖にして良家の子弟を脅かし金錢其他の財物を強奪し甚しきに至つては妙齡の少女を途に擁して痴情の犧牲とするに至る等其暴狀人をして轉た寒心に堪へざらしむるものあり今之を十年の昔に見るに當年の頑童なるものは時に男色を漁り或は膂力の優れるを誇りとなし強弱相鬩ぐ底の蠻行をこそ敢てしつれ其の風相よりするも將た其の意氣よりするも未た今日の如き軟弱を極めざりき加之此の時代の少年にして假りにも女性を口にするものあれば直に友人の間に唾棄せられ鐵拳の制裁を受くるが常なりき而も同じく變風と雖も是等は稚氣尙愛すべし思ふに是れ時代推移の然らしむる所にして現代の思潮が爾かく濁れるに職由せるものなるべく從つて罪を一個無分別なる少年に嫁するは或は酷ならんも獨り當局者のみならず今や其の父兄も此の弊風に苦慮しつゝあるに想到すれば不良少年の事決して輕々に看過すべきにあらず

予は現時少年の惡風を以て獨り學校敎育の短所にのみ歸すべきにあらずと信ず尤も深く推究すれば卽ち精神敎育の基準を去る稍ゝ遠き近代の所謂科學偏傾の學風と一般敎授の方法が痛く形式に流れたるとが一半の病根をなせるは世人の既に知了する所にして是亦故なきにあらず然れども直接に彼等の心身を支配するものは寧ろ其家庭にあり而も一味淸新の空氣に缺如する所ある現今の家庭は軈て少年を驅つて不良の群に走らしめ乃ち家長の威令行はれず例へば彼等の曲事に對して怒號漫罵を浴するも將た一喝の痛棒を喰はすも父兄自身の素行にして缺點ある以上子弟の心服を克ち得べくもあらず予は年少米國に遊びて親しく其家庭を瞥見し竊に欽仰の念を禁じ得ざりき彼等の家庭は藹然一家を擧げて和氣藹々、野に花を摘むにも湖に舟を操るにも何等親子の區別をなさず一見些の儀禮を存せざる如きも轉じて家室に入るや兒女の父兄に於ける恰も君臣の如きものありとも云ふべく毫も子弟の反抗を容さず尙父兄は常住坐臥子弟の善導に力め苟も風俗を紊り心身の軟化を來すが如き小說類の耽讀を許さゞるのみならず其他あらゆる方法を以て子弟の訓育を念とせり更に予は同地の校庭に在ること幾年其開放主義にして且嚴肅なる校風に亦一驚を喫せざるを得ざりき尤も予の學べるは師範學校にして男女の學生を收容し居るが課業以外是等の男女學生は一堂に會すること自由にして且つ語り且つ笑ひ兩性の間亦何等の羞耻を含まず之を外部より一見すれば靑春の血の漲る所甚だ危險なるものある如きも其實は斷じて然らず開放されたる公席以外若し廊下の如きに於て男女　語を交ゆるときは忽ち衆人の凝視に會し身自ら校を退くか或は敎師の諄々たる訓戒の下に放校さるゝか二者其の一に出るを以て常に最後の運命となせり斯くの如くにして米國少年の間には嘗て本邦に於けるが如く不良少年の跋扈を聞かず若夫れ我邦頑童の由つて來る所を探究すれば今日の弊風は必ずしも一時的變調とは見難きものあり。（東京日々）

▲藝者を要求する社會と婦人

成女高等女學校長　宮田脩

或人は男子が藝者に迷ふのは、彼等が美貌美音を有するからであると解釋する。而して深い心のない婦人は、我夫の身持をよくせんが爲めに、彼等に劣るまいとして化粧や音樂の稽古に腐心するへがある。なる程美貌も美音も確に人を魅する道具に違ひないけれど美貌に於ても美音に於ても彼等以上の妻君を持つ男子が、なほ花柳の巷に沈溺するところを見ると、必しも此一點が藝者なるものの存在する理由ではなからう。自分の考ふるところを以てすると世に

藝者なるものの存在する理由は、つまり其時代の一般婦人が時代を理解する頭を缺き、從つて其時代の男子の好伴侶となるべき資格を備へて居ない爲め、此缺陷を充すものとして現れたことと思ふ。

其證據には、餘りに狹い意味で良妻賢母主義の女子敎育を施して居る佛蘭西の如き、東洋諸國の如き國々に藝者樣のものが多くて、亞米利加の樣な十分女子の品位を認めて居る國々には、此樣のものの少いのを見てもわかるしまた藝者なるものに惑溺する男子の家庭に、概して洒脫な、意氣な、敏捷な、度胸のある妻君 少いのを見てもわかる。尤も中には何處から見ても立派な妻君を持つて居ながら、流連荒亡の不品行な月日を送つゝ居る放蕩兒もあるが、是は病的とも云ふべき一種特別の人間と見なければならぬ。

是を要するに藝者を要求する社會に於ては、其社會の婦人に缺陷があるからこそ、此樣な二重の慰藉者を出すわけなのであつて、ひとり藝者や之に迷ふ男子のみを攻擊するわけには往かない。元より藝者の居る社會は理想的の社會ではないから、其風俗を改めることには我も人も努めなければならぬが世間一般の婦人は彼等を攻擊非難する前に、先づ各自が此雜複な多忙な社會の戰鬪から疲れ果て、歸つて來る男子に、果して同情し得る知識の要素を持つて居るか而して之を十分慰藉する工夫と手腕とを持つて居るかと考へ、是れに苦心しなければならぬと思ふ。尤も萬事に責任の有る家庭の主婦と、何等の責任なき解放された藝者とは、到底競爭も出來まいが、男子と云ふものが本來放蕩遊冶に流るべき動物でない

以上は、一般婦人の木の培養方如何で、末は自ら治まる筈である。夫にしても今後の婦人は、單に裁縫や割烹の如き家庭用の事のみに滿足せず、大に其頭を養ふべく相當の學識を備へる爲めに女學校程度の敎育位は受けてほしいと思ふ。（婦人畫報）

▲米國の家政學

井上秀子

米國の家政學は、小學校邊りから、既にもう學理を實地に施して學理を眞に理解する機關として居るので料理一つにしても拵へ方とか、献立とかいふ技術の方面を第一にするのではなく、皆生理學や化學から割り出して、この卵子にはどれ丈けの蛋白質があり、これが體內に入ればどうなるか、どれ程に調理せられたのが一番滋養になるかと云ふ風に料理敎室は化學や生理學を了解せしむる場所であるのですから、割烹臺に頭がとゞかない位な子供迄が必ず試驗管と寒暖計とを持つて料理臺に向ふて居るのです。故に大學等に進みますと其の日、課せらるゝ一つの料理にさへ多くの參考書を調べて一々實驗によつて肉なら肉の鑑別法かち、成分から、料理して變化する所から、時間から、滋養如何から、何から何迄を、學理的に調べて行く。このやうにして大學の課程を終つてなほ三年間一つの問題に就て研究して、何か新らしい說を見出して規定、學課を終ればそれで博士の學位を許されるのであります。故に家政學の學理が迅速に進步する計りでなく家庭內の機械等が澤山發明せられてゆきます。

米國では學校計りでなく、婦人の社會事業として、貧民の間に或は看護婦等の間に、整ふた設備のもとに盛んに家政學が普及せられつゝあります。此の程觀光のため日本に來られたスミス、ウォールトン如きは有名な社會事業家ミス、アダムスの親友で、ミス、アダムスに次で米國では有名な人でありますが自ら貧民窟に住居し常に數十人の看護婦を派遣し無學な身體の注意をも知らぬ人々に衞生の智識を與へその生活を次第に上げて行く方法を講じ、疲れた母親を休養させ、病人に手當を與へてやると云ふやうな事をして居られますが、やはりその社會救濟事業の中にも又家政學が入れてあり、その看護婦は貧民の間にこれを平易に敎へて居る。其の他料理學校を開いて、料理を敎へ講演會を開いて貧民の子供の親を呼んで育兒法の心得を與へるなどして居ります。米國が上下の家庭を擧げて、その生活が日々に改まつて來るといふのは、謂れのない事でありません。（家庭）

▲猩紅熱の經過

醫學博士　加藤照麿

猩紅熱は黴菌から起る病氣ですが、黴菌が身體に入つてから、三日から五日ぐらゐ經つて發します。俄かに熱が出て、四十度四十一度ぐらゐになり、激しい頭痛がして、嘔吐を催します。それから、咽喉が痛んで、ものを嚥込むことが困難になります。口をあけるしてみると、咽喉が赤く腫れ上がつて、舌が覆盆子のやうにポツポツ赤くなります。發熱後二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日目頃になると、頸、胸、背、下腹、部、腕脚などに細かい發疹ができます。それは麻疹よりズッと細かいので、少し離れてみると、身體全體が赤くみゐます。尿が少くなつて、色が黑つぽくなります。熱は、四五日はそのままでゐますが、六日目ごろから少しづつ減じて、十二日ぐらゐで平熱になつてしまひます。

熱が下ると、身體中の皮がむけ始めます。それは發疹の早く出たところから早くむけ始めます。

麻疹のあとも皮がむけますが、麻疹の後は、皮が粉のやうにボロボロになつてむけますし、猩紅熱の方は、紙をはがすやうにベロベロとむけます。猩紅熱の重いのは、餘病に惡い病氣を起します。それはどんな病氣かといふと、

（一）猩紅熱ヂフテリア　咽喉の痛みが激しくて、ヂフテリアのやうに咽喉の義膜のみゐるやうになることがあります。これはつまり熱のために咽喉の組織が死ぬので、猩紅熱はなほつても、このヂフテリアのために命を失ふことがあります。これを猩紅熱ヂフテリアと申します。

（二）中耳炎　猩紅熱の餘病として、中耳炎にかかることがあります。それから更に腦膜炎を併すこともあつて、非常に危險な病氣です。

（三）腎臟炎　これも、猩紅熱の餘病としてよくある病氣です。しかも非常に危險な病氣ですから、醫者は、猩紅熱患者を診察する時は、初めから尿の試驗をいたします。（婦人世界）

▲金魚の手輕い飼養

都も鄙も艶陽の空長閑になり行き金魚の美しき姿を水に浮かせて家庭の目を娯ましむる季節も間近になりぬ金魚の中には一尾百圓、二百圓と云ふ高價のもあれど是等は姑く別とし縁日抔にて買ひ來る金魚の極手輕なる飼養法に就て農科大學委託試驗場秋山吉五郎氏の談を掲ぐべし

▲器物　金魚は極弱いものゝ樣に思つてる人もありますけれど夫程弱いものではなく夫を殺すのは全く注意が足ないからで御座ります器物を桶でも箱でも亦硝子の器でも瀬戸を引いた盥でも構いませんが座敷に置くには硝子のツンドゥが綺麗でもあり一番で御座ります、詰り器物は相當の場所さへあれば宜しいので其大さは一尺の硝子のツンドゥには五匁位のもの（圓く肥ゐたもので頭より尾元まで一寸五分總體で二寸五分より三寸位まで）　五六尾、十匁位なら二尾と云ふ所で是より多くなると狹くなつて好くありません

▲食餌　餌を遣るのは午後より午前中が好いので最も好いのは氣分の最も好い十時頃で一回遣れば澤山で御座ります餌は孑孑、沙蠶、蚯蚓等一定しては居りません、詰り食ふ物なら何でも好いので麩でも結構です孑孑なら五匁位のものには一回に五匹位が適當で御座りまして十匁位のものなら八九匹と云ふ割合で御座りまして、餌を五分間位入れて置いて喰ふ氣が無ければ直ぐ揚げて了ひ其日一日は與へなくても差支はありませんので斯ういふ時は遣らない方は好いのです能く麩などを入れ放しにして水が白くなつて居る事がありますがアレは極好くないのです餌は喰ふても喰はないでも五分間位より入れて置いては可けません金魚を一番殺すのは餌を遣り過すからで、夕方にでもなつて少し餌を遣り過さうものなら翌朝見ると皆殘らず死んで了つて居ます、何でも八分位にして少なく遣つて置けば殺す氣遣は御座りません

▲水かへ　夫から水です水を取換へるのは餌を與へてから二時間乃至五時間位經つた時が宜しい餌を與へて直ぐ取換へるのは好くありません、取換へるのは毎日でも一日置き二三日置きでも大した違ひはありませんが成る事なら毎日取換へた方が宜しう御座ります、入物の周圍に着いて居る蒼い水垢は成る丈け落さない樣にして中に沈んで居る塵芥だけを掃除するが宜しい併し硝子のツンドゥは周圍に水垢が着いて居つては見苦しいから周圍丈けを落して底だけを殘して置きます尤も無性の飼ひ方になると毎日餌も與くれなければ水も取換へないでも差支はなく十日も二十日も打捨つて置くと自然に蟲が生いて夫を喰つて活きて居りますが夫では飼つて居る娯しみがありません水の温度は池や大きな漆器では八十度位までは差支ありませんけれど箱や硝子の入物では八十度になると直く弱つて了ひます適度は先づ六十度位の所ですから此温度を見計つて水をかへて遣らなければなりません（時事）

時事ろの折々

▲羅馬法王とロオズベルト氏▼

米國大統領として世界に隱れなき聲譽を博し、期滿つるに及むで、野に下つたロオズベルト氏は父子相携へて、亞非利加の蠻境にわけ入り、冒險的猛獸狩りに餘念なかつたといふ聞くも勇しい大統領後日譚につけ加へて是非記憶すべき近來快心の振舞は既に西電によつて諸姉も御承知のことでありませう。今や歸米の途すがら歐州の各地を巡遊してゐる最中ですが、先頃羅馬に立寄り法王と謁見する事になつた。ところが、法王は、自分の感情を害さずばといふ條件附にて謁見を許さうといはれたので、ロ氏は自由を束縛されても會見する必要はないと、斷然此方から拒絶した、法王が何故にこんな瑣事にかゝはつたか。我邦にもつい昨年訪問された前米國副大統領フェヤバンクス氏が、羅馬法王との謁見後、さる美以教會で一場の演説をした。そのことがいたく法王の逆鱗に觸れたらしいといふのです。此の仔細はこの位しか解らぬし亦從つて、之についてとやかうと批判すべき性質のものでもありますまいが、ロ氏の人格の一片鱗を窺ひ知ることが出來やうかとおもひます。

▲日韓合邦問題の成行

さうあらう、あらねばいつまでも埒が明かぬといふのが、日韓合邦問題です。若し嚴密な意味からいへば、國際法の教科書でいはゆる半主權國とか、半獨立國とか、又は一部主權國といふのは全然無意味のことであります。すべて一國の獨立と申さば、兵馬軍備の權利司法裁判の權利、外交通商の權利こそ其要素として缺く可からざるものでありますのに、既に韓國は此等の權利を實際失つてゐるわけであります。故に韓國は唯名義上の獨立國ともいふべきでありませう。今日、我對韓政策として、合邦を名義立にするのが果して利益であるか否かは容易に測り知ることは出來ませぬが、或は此際斷然たる最後の處分をなす方が却つてよいかも知れませぬ。唯だ此際心すべきはこの處分が政治家の一時的野心に出づるとせば、却つて後難を貽すに至ることも萬々ないとは限りませぬ。昨今、世間で噂されてゐるのを見ると、此問題の手順形式は既に廟議一決、唯餘すところは、「時」の問題であるといふことです。「時」は「いはゞこの芝居の除幕者」ですが、さてその大立役は誰れがする。現統監曾禰子爵は病軀此重任に堪へずして早晩辭職するとか、或は然らずして、同子爵現任の儘決行して、同子爵の死榮を飾るべしといふことで噂とりどりであります。

▲學制改革案の審議▼

多年朝野識者の間に研究された學制改革の問題については本年の帝國議會に於てもいはゆる政友會案なるものが、議題に上りましたのですが、此度文部省當局者の方案も愈高等教育會議の諮問に附せらるゝことになりました。この頃岡田文部次官は、府下教育關係記着を一夕富士見軒に招宴したときに、大略のことは内示されたらしい。で、今東京朝日新聞の傳ふるところを左に抄錄しておきます。

一、義務教育六ヶ年修了後直ちに中學に入學するこ

さは現制の如し

一、大學、實業、專門學校の制度は現行さ異なるこさなし
一、中學の修業年限は五ヶ年さす
一、中學四學年修了の者は試驗の上高等中學校へ入學せしむ
一、中學五學年には農、工、商の實科を課す右は土地の情況に依り一校に一科若くは二科を課設す
一、中學校の授業時間を增加す
一、高等學校は高等中學校さ改稱す
一、高等中學校は大學豫備門に非ず高等普通教育を施す所さす
一、高等中學校は文學外國語地歷を主させる文學部さ數物化學博物を主させる理學部さの二學部さす
一、高等中學校は其修學年限を各三ヶ年さして中學四年修了の者を試驗の上入學せしむ
一、高等中學校は第一外國語の外英獨佛の內一科を第二外國語さして必須せしむ
一、高等中學校は國庫支辨を以て增設し又府縣費を以て設立するこさを得
一、高等中學校卒業生は試驗の上帝國大學に入學し能ふ
一、中學校五年卒業生は試驗の上各種實業專門學校へ入學し能ふ

改革案の要旨は大體右樣でありますが其骨子は、尋常中學校の修業年限を五ヶ年高等中學校の修業年限を七ヶ年とする二點であります。そして此制度は獨逸の學制に倣うたもので、即ち尋常中學校なるものは一般中等教育を授くると共に主として將來專門學校に入るべき課程を修めしむるのであります。で高等中學校はいはゆる正則中學校で高等普通教育に併せて將來大學に入り最高の教育を受くるに必要な課程を修得せしむるものでありまして、尋常部と高等部とに二分し前者は從來の中學五年程度を教程の整理に由つて、四ヶ年間に修得せしめ、夫より直接高等部に連續進入して三ヶ年間高等中學の教育を受くるもので、此間は學期修業時に於ける試驗の外別に特別の試驗を用ゐず高等中學なる名稱の下に七箇年間全科を通じて履修せらるゝ組織で、又尋常部は從來の高等學校に於ける三部を二部に合併して第一部は法、文、第二部は理、醫、工農に必要なる豫備教育を兼修せしむるものであります。

さて此實施期はいかにといへば、本案は高等教育會議の諮詢を經、各方面も異議なくば、速かに勅令として公表せらるるもので而もその時は、前掲の骨子のみに止まり、其他の小綱細目は一々臨機適應の行政處分で定めてその目的に歸一せしめらるゝことでありませう。が、さて明年度から早晩實施さるゝとせば、十數萬の學生をして制度の改變によつて途方に迷はしむるが如きことありませう。それで止むなくんば、明年中學に入校すべきものより適用することにならう。それが完成には七ヶ年後に俟たねばなりませぬ。全體の成績如何は大學卒業迄卽ち前後通算して十二ヶ年の經過に徵しなければなりませぬ、僅に大學課程修得者のために一ヶ年を短縮するのみにて、一片法規の改廢容易なるが如くして其實重要なる學制の改革であることは勿論であります。

さて又學校經營等の方針にいたつては文部省としては尋常中學校は公私立を許すも高等中學校は直轄並に公立とし、私立は之を許さぬとのことですから、現今民間で中學を經營しつゝあるものは、かく二種の中學を生ずるに至り且尋常中學より大學迄連絡一貫せる高等中學の私立經營ヶ許さないとすれば、僅かに四年級で現在と同一の競爭試驗に由り高等中學に轉學せしむる外ないから、學生收容等の實際上の利害問題より延いて其制度に關し議論沸騰するでありませう。しかも、官立公立の高等中學としても大學と一貫する關係上　多大の生徒を收容する結果として、學校の設備維持等に要する經費

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

資金も巨額に上ることでありませうが、財政上此の餘裕がありとすれば、教育界の一大慶事であり、且つ又從來過剩生產の觀あつた中學卒業生の有すべき登龍門上の煩悶苦惱も幾分散せらるゝでありませう。然し、案の正面解釋として未だ容易に此樂觀をなすことは出來ませぬ。大學進入、各種專門學校入學の際は尙「試驗の上」といふ難有條件が附してあります。これはいつまで經つてもかくせねば、需要供給の原理上不得止手段で、結局各自の實力競爭といふことになりませう。唯だ從來の如く廿歲時代の煩悶を多少緩延べさせるまでてありませう。(四月十八日稿)

北清見聞記

片山幽吉

新女界記者足下

予は昨年京を辭するの日、教友野口君は予に大に本誌に書かんことを强ひらる當時予心中之を諾せしと雖、昨春當天津に赴任以來兎角多忙なる儘に遷延今日迄其責を果さず、常に遺憾に思ひつゝありしが、頃來小閑を得ると共に、一方昨年來一年間の予の清國生活は、多少清人に對する異なれる見聞を成さしめたから之から時々書かうと思ふ。若し夫れ内ヶ崎君の英國通信を行あたりばつたり集といふを得べくんば、僕のは一寸古いが乞食の頭陀袋とでもいつたらよからう。而して又之は僕が婆心からも來るのである。兎角我が日本の死活問題の解決所は清國であつて、此檜舞台で一つ甘く腕藝を打たねば何んぼ軍備は充實しても駄目である。故に日本の發展と東洋の平和を希望する者は男女を問はず必ず此對岸の清國に注意せねばならぬのである。故に僕は態々忙がしい時間を割いて、之をものし樣と思ひ起したのである。

所が清國といへば昔では四百洲、今日では十三省而して其一省かステキに大きいから、全體の綱羅は專門家で無い限りナカ〳〵出來ぬ。殊に南清と北清は非常の相違があるから、僕は先づ手近い北清から始めようと思ふて、敍上の題目を撰んだ記者足下幸僕の微衷のある所を看取せられよ。

▲三種の清國婦人

こんな題目を掲げると何か清人の三種の神器の話か、左もなくんば例の不美人の衛生的女性に惡白い肺病式婦人に、十人並の美形等を擧げるのかと思はれ樣が事實は決してそうでない。之はそんな小區分でなく矢張り清人式に大々的の相異ある婦人の三形を云ふのである。先づ其名目を列擧すると(一)北清婦人に(二)滿洲婦人に(三)南清婦人である。

(一)北清婦人　之は例の清國の特產にして西洋婦人の蜂腰と共に東西の双璧たる鳥の足の樣な纒足を持てる婦人で、先づ其容貌から見ると餘りに氣がきかない。其顏面は顏面神經痛でもある樣に、一種シカンダ所がある。之は無理は無い。例の纒足は身體全部に影響して何だか一種の奇形を呈し、其步き振りと來たら、足を廣げて鳥の樣にヒョイ〳〵と步む。余は之を見る度に一種氣の毒な思ひがする又イヤな感じもする。事態如此だから顏面がシカムのは無理はない。加ふるに坊間傳ふる所によれば、男子の辮髮は清は中華だから、頭の眞中を延長さして、常に國家の發展を意味せしめるが、婦人は古から餘り尊敬されて居ない所へ、滿人が敵を苦しめる一手段として、例の纒足を强ひ、先づ其步行を不自由ならしめ、延いて自宅にのみ籠居さする樣にしたのだと。成程籠居は所謂深窻の佳人と洒落れて、一寸意氣な樣ではあるが、事實はそうでない。常に薄暗い不潔な室にのみ閉ぢ籠つて、猩々が醉つぱらつた樣な赤い顏に太い眉毛では一見田舍廻り役者のお化粧の樣に、其奇相は實に天外から來た樣である。我々之を見ると如何にも憐

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れな境遇に居る樣に思はるゝが、彼等は手や足ではヤレないかはり、其口は頗る珍とすべき者があつて、一朝男子を惡罵する時には、其形相夜叉に類し、實に辛辣を極むるのである。こゝへ來るとナカ〳〵エライ者であつて、偶まには賢婦人も居るのである。先づ一體に此種の婦人は其風貌の堂々たる者が、無いのである。

(二)滿洲婦人　之は內地の京都婦人といふ格であるが、モット風采は堂々たる者がある第一に彼等は例の纏足をやらぬ、隨つて其體格も頗る見事であり、且つ滿洲美人特有の艷麗とまでは行かぬが、一種美なる服裝をするし、又お化粧も赤の反對に白くやつて、昔の日本婦人の樣に口にはヒドク紅を塗つて小さく見せる邊りは慥に日本式である。併し何れが先きかは諸君の判斷に一任しよう。加ふるに彼等が木の日本人の所謂木履をはいて居る所は大に吾人の興味を引いた。又頭は「打把」といつて、日本婦人の笄ともいふべき一種の大きな黑塗の物を頂いて居るから一寸見ると北極の馴鹿の角の樣にも見える。然し彼等二三の女中を連れて歩く邊りは、慥に價値はある。

かく體格も立派に裝飾も可なりと來る上に、精神も例の滿洲式にコセ〳〵せずに、應揚であつて何となくオボコな好い所がある。又彼等が北京を中心にして、北淸ではナカ〳〵意張つて居る。之は愛親覺羅氏の賜で、今でも北京では滿人と來たら、大持である。之に反して南淸へ行くとカラ持て無いそうだ。マンザラ北京の敵を南京で取る譯では無からうが、各一部分に集合して別部落をなして居るとやら。

以上の二種は各特色は供へて居るが、共に非活動的である。前者は鳥の歩みの其ならでヒコ〳〵とやる樣はドコ迄も非活動的であり。後者は體は堂々たるも、例の服裝でソロリ〳〵とねり歩く樣は、又是西洋婦人の蜂。動。主。義。に比較したら、大に非活動的である。是等に反して服裝身體化粧精神からいつて、大に活動的であるのは例の南淸婦人である。

(三)南淸婦人　僕未だ南淸の地を踏まぬから、十分確言は出來ないが、北淸に居る婦人や色々見聞談を總合すると、第一體格は滿洲美人の如く衞生的でないが、北淸婦人の如く纏足もせない。先づ中位ひで日本婦人をモー少し丈を高くした位ひ。又服裝も滿洲婦人の如く頭に餘計な打把を戴かず、又服も北淸婦人が、先細りの畸形の足に例の支那人風の馬鹿に太いズボン下を着いて、其細い際に澤山足帶を卷いて居る變テコな風もなく、頭は日本初代の網掛の束髮位いに、膝迄位いな服に絹の普通のズボン下をはいて、見るからにナカ〳〵活動的である。故に滿婦人の樣に氣取りもせず、又北淸婦人の樣に惡びれもせず、よく注意が行屆いて交際社會等へ出ると隨分やる方である。先づ手八丁口八丁の方であらう。

由來南淸人は人種の系統も違ひ同一氣質も大に異つて、北淸人の樣にロクズー〳〵しくない、頗る機敏である。北淸人も南の廣東人等と來ると一目を置いて居るが、此間の婦人又大に其趣きのあるは自然である。がこゝに面白いのは、先の滿洲婦人及南淸の男女と日本人とが、有形無形上大に共通點のあることである。之等はユックリ十分推究して調べたら色々發明も出來ようが、今は出來ないから今回は之で止めやう。之から追々珍談奇聞を御聽に達しましよう。

隨感

不良學生と家庭の事情

鈴木生

▲不良學生の檢擧といふことは、近來屢々耳にする言葉であります。此頃の新聞を見ますと、殆んど一日として此事に就て記さぬはない位であります。わけて此頃の「東京朝日」は二三段に亘り、緻密に幾多の實例を擧げて連載して居りますが就て之を見ると、いづれも戰慄を禁じ得ないやうな事柄のみてあります。

▲で、その所謂不良學生なるものは、如何なる階級の家庭の所產なるかを調べて見ますと、其中等以上の家庭に育つた者の少なからぬには、實に意外に感せざるを得ません。何故に中等以上の家庭に育つたものが多いのでせう。家庭も善良なるべき筈、敎育も充分なるべき筈と思はれますのに、さりとは不思議な現象と申さねばなりません。

▲其原因は勿論種々ありませう。其人の性情にも因り、又境遇の力に因るもありませう。けれども其最も重なる一が、家庭の事情に存することは、蓋し想像に難からぬことであります。私は「不良學生」といふ言葉を聞く毎に、直ちに其家庭に思ひ及ばざるはありません。

▲一口には申されませぬが、今日の日本の家庭に果して高尙な趣味なるものがありませうか。少くとも今日の夫たり妻たり、父たり母たる人が、其家庭に於て充分の趣味を見出して居りませう、一家の主人ともいふ人が、よく樂を外に求めて酒氣を帶びて宅に歸ることが多い。妻たり母たる人も、たゞ家をのみ後生大事に守つて居るのは「つまらない」と感じて隨分家を外にして歩く人が多いやうに見受けます。

▲不品行とか自墮落とかに陷ざるまでも家の內の事よりは家の外の事に興味を持つて來るやうな傾向はあるまいか。最も適切にいへば、婦人會とか慈善事業とかの幹事とか委員とかとして奔走周旋、社交的な務めに從事することを名譽とし樂として、自然家庭のことを疎かにするやうな傾きはあるまいか。主人は主人で樂を外に求め、主婦は主婦で社交的の務を重んず、雇人任せの子女敎育で、十全な結果の求められやう道理がない。かくの如き家庭よりして幾多の所謂「不良學生」を出すことは、寧ろ當然なことゝ言はねばなりません。

▲私は固より今日の婦人を悉く家庭の內にのみ閉ぢ籠むることを主張するものではありませぬ。さり乍ら婦人の天職が主として家庭內に存することは、言はずもがなのことでありませう。家庭のみを天地と考ふれば、如何にも不平も起らうし不滿にも感ずるでせう、けれども若し家庭は自分の愛する良人と子とをして社會に活動せしむる策源地として見るならばそこに何の不平かあり不滿かあらむ。寧ろ此家庭の女王たることを、光榮として感謝せねばならぬと思ふ。

▲既に家庭を中心として、家庭に全力を注ぐ。家庭の內に趣味の湧き、春風の吹くのは知れた事であります。主人も樂を內に求めて家族と共に享樂し、主婦も心を一にして子女の鞠養に盡す「不良學生」などの出でやう道理は萬なからうと思ひ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ます。而して後にこそ社會の爲にも盡くすべけれ、かゝる働きこそ眞に有力な働きとして、世を益することと思ふ。

▲社會のために働くことは固より善事です、美事です。併し婦人本來の務めを忘れて外に活動するのは本末轉倒です。此頃「不良學生」なるものが、中等以上の家庭より生ずるの多きこと〻、婦人の社會的務めの多くなつたこととを思ひ合せて聊か茲に一言致しました。

嗚呼精忠義烈の人

一記者

第六潜水艇が不幸にも沈没の悲運に遭遇しました事は、讀者諸姉の既に御承知の事で御座いませうが、艇長佐久間大尉以下の悲壯凜烈なる最後を聞いては、誰れか其精忠に打れて涙泫然たらざるものが御座いませうか。近來の大慘事として又帝國軍人の龜鑑として、世の同情が翕然として此等の人々の上に灑がれたのは誠に故ある事で御座います。今大尉の遺書なるものを讀みますに、第一に自巳の不注意より陛下の艇を沈め部下を殺したる事を謝し、併せて此慘事によりて潜水艇將來の發展の上に畏縮を來さゞらむ事を希望し、第二に沈没の原因及沈没後の狀況を精細に記し、第三に遺族の救恤を陛下に願ひ、第四に上長先輩及び知友に最後の挨拶を殘してあります。艇が沈没し始めてからあらゆる手段も其功なく、刻々に迫り來る運命の悲慘に身を委しながら、空しく死を待つた艇員の心事は如何であつたらふかと思ふにつけても從容として一系亂れず、各員は各々其部署を離れず、死を以て其職を守つたる覺悟の程には只々感嘆の涙あるばかりで御座います。嘗つて之と同様の慘事が佛國に起つた事がありました、引き上げて見ると艇員は悉く司令塔の下に集つて、先を爭つて出ようと無益にあせつた跡を殘したまゝで死んでおつたと聞きますが、生命の危險に臨み先を爭つて助からうとするのは人情の自然で格別怪しむに足りませんが、一度其職に當つては死を以て之を守り、而も夢寐にも君國を忘じないといふのは男子の面目、否日本帝國臣民の本領であります。私は斯る壯烈なる事實に接する毎に、日本帝國に生れて來た事を誠に難有いうれし事と思はざるを得ないのであります。

精忠の人佐久間大尉が其公遺書の中に記入して、最後の憶念を獻げたる少時の師生田氏の談話は、最もよく大尉の人と爲りを語つておりますから之を左に抜きます。

「勉（大尉の名）は私が若州小濱の中學に數學教師をして居た時の生徒で三年級まで教へただけですが其頃から沈着いた子でした非常に親孝行なのが何より目立つた點で常に身を詰めても親に苦勞を掛けまいと言ふ風があり寄宿も不經濟だと遂には自炊しながら勉强しました父は神官であつたと思ひます三年級を終つて上京して後今日まで私の様な者をも先生々々と片時忘れず音信もすれば觀艦式で來たの米艦の歡迎で來たのと言つては當地に迄訪れて呉れる一昨年奥に參る時も上京の途次態々寄つて泊つて行きましたと云ふ次第で感情の實に美しい人物でした實を申すと中學時代の生徒で永く此様に交情を繋いで居るのは他には一人もありません此一點だけでも其人柄が知れます親孝行と言へば實に到れり盡せりで最早故人になられたか知らんが軍職に就てから六十餘歳の病弱な母の手を引いて西京や東京博覧會を見物させて慰安して居りました先輩に對しても行く先々から必ず繪端書の音信等を缺かしたことがありませんでした

即ち親に事へては孝に、友に對しては友情の念に篤かつた事を見ました、吾々は其立派なる人格に感嘆措く能はざるものがありますと同時に、斯の如き人物の死に對して益々悼惜の情に堪へないものであります。

親に孝にして友に篤い人はやがて君國に對して忠義な人となるのであります、一度至誠の發する處必ずや精忠義烈日月を貫く底の行ゐとなるのであります。死を以て職を守るといふ事は啻に軍人に限つた事ではありませぬ、如何なる職業に從事しておる人でも此心掛を逸してはならないと思ひます。私共は日常の生活に於て猶ほ此至誠の意を持し、兩親に事ふる上に　家事を整理する上に　子女を教育する上に　自已の節操を護る上に於て、此度の惨事に表はれたる教訓を忘れないならば必ずや目覺しき行爲が出來る事と信じます。

編輯だより

◉あはたゞしき世の樣でも御座います、二片三片散るよと眺める間に、一夜の風に紅の花は殘りなく樹梢を辭し天地は一面淺黄の模樣を流して、草の色森の影、悉く若葉の香の漲る頃となりました。三春の行樂只夢の間に過ぎ去つて、轉た人生匆忙の念に打たるゝ次第で御座います然れど時は之れより富士一つ埋み殘して若葉かなの候となり萬物生育の姿の最も確實に觀視し得らるゝ期、吾等の心も多大の發展なしには止み得ない事と存じます。願くは初夏の姿は希望の色に染まれよ。

◉韓國傳道に出張中なりし主幹海老名氏は去る十六日恩寵の下多大の收獲を得て無事歸朝致されました。

◉野口末彦氏及同夫人は十五日正午の上野發列車にて任地前橋へ赴かれました。其後の事務處へは相原文學士が住まるゝ事となり、從來の通り同處にて事務一切を執り扱ふ事となりました。野口氏の現住居は上野前橋市曲輪町四五です。

◉吉野作造氏も愈々十五日の午後六時半新橋發列車にて遊學の途に就かれました

◉諸種の投書を募集致します。殊に日常家庭の實驗談又は感想等は大に歡迎致します。續々御投稿あらん事を希望致し升

本誌定價　一部金拾錢（郵税ナシ）◎六部半年分前金六十錢（郵税ナシ）◎壹ケ年分十二部前金壹圓拾錢（郵税ナシ）

外國行定價　壹部金拾四錢（郵税ナシ）◎半年分前金八拾錢（郵税ナシ）一ケ年分前金壹圓六拾錢（郵税ナシ）

廣告料

行（廿七字詰）	金廿五錢
四分ノ一頁	金三圓
半頁	金五圓
一頁	金十圓
内表紙十二圓	外表紙拾八圓

●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候

●郵券代用は一割増の計算にて御送附被下度候

御送金は振替にて拂込るゝ方便利に候。但手數料金二錢御加へ被下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず左の宛名に願上候

東京市小石川區小日向臺町
三丁目九十三番地
新人社事務所
振替貯金口座一四〇〇五

明治四十三年四月二十六日印刷
明治四十三年五月一日發行

發行兼編輯人　東京市小石川區林町四十三番地　海老名彈正
印刷人　東京市小石川區小日向臺町三ノ九三　相原一郎介
發行所　東京府下豐島郡巣鴨村大字巣鴨六百六十一番地　新人社
印刷所　東京市赤坂區田町五丁目十一番地　[illegible]活版所

會員募集

共立女子職業學校

櫻友會內女子手藝普及會編

新學期開始

入會の最好機

女子手藝講義録

每月一回發行

東伏見宮妃殿下の御愛讀を辱ふす

好機會を逸せず卽日入會せよ

本講義は婦人用家庭講義錄中のオーソリチーなり
本講義は老熟せる教員諸氏の執筆なり
本講義は理論と實際を兼ね教授法頗る懇篤なり
入會者は頗る機敏に世の流行を逐ふ人なり

內容如斯豐富偉大なるを看よ

裁縫科（和服洋服古代服）編物科（各種）組糸科（各種）刺繡科（各種）袋物科（各種）造花科（和洋草花各種）果實科（各種）割烹科（和洋各種）細工物科（絹細工、瓶細工、接物細工、裁縫細工各種）手藝用に圖画科（各種）手藝教授法（各種）其他
課外講義（數種）

入會申込所
東京日本橋角
電話本四一四番
振替東京二三八番
大倉書店

壹ヶ年修了

進呈
入會規定內容見本

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

御報次第早速品物持參御覧に入れ申すべく候

本場 はまちりめん

近江國長濱名産

濱縮緬反物　小切れ　兵児帯

うづら縮緬　濱絹　かざり織

眞綿　濱蚊帳　其他いろ〳〵

右は直接織元より取寄せ販賣致候に付

品質よろしく　價格やすく

本場に於て御求め被遊候とすこしもかわり御座なく候

東京市牛込區新小川町二丁目十一番地中の橋通り

ちりめん屋　山田常愛

郵便振替貯金　東京一四六七五番

染もの御取次ぎ致候

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

京都御染物

本檳榔子黑

江戸褄模様類

新柄小紋色々

東京市小石川茗荷谷町九三

京屋　佐藤松次郎

御一報次第直ちに參上可仕候

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第貳卷第四號目次

●結婚の眞義　安井哲子

想苑

●古代獨逸人の間に行はれし一夫一婦の美風　日本女子大學講師 村田勤

●月と戀愛　文學士 三澤糺

●生物進化の話　理學士 谷津直秀

●絶島の半日　田澤ふちらふ

家庭

●日記の効を知りたる私の實驗　元良よね

●米國教育家の兒童教育意見

講演

●道德の基礎　海老名彈正

雜錄

●摘草集（新聞雜誌瞥見）

●時事其折々

●隨感

●編輯だより　安井哲子、元良よね子

新女界第壹卷
新人第拾卷
合本出來

装釘堅牢優美永久保存に絶好也

定價
新女界　七拾五錢
新人　壹圓貳拾五錢
（郵稅共）

右部數に限りあり希望の方は振替貯金にて至急御申越あれ

小石川小日向臺町三ノ九三
新人社事務所
（振替口座一四〇〇五）

卜居　前橋市曲輪町四五　野口末彦　同精子

移轉　本鄉區弓町一丁目三角田方　鈴木文治

轉居　小石川小日向臺町三丁目九十三番地　相原一郎介

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

院長診察月、水、木、金午前、松田醫學士診察火、土、午前、窮者施診、火、木、午前、入院診斷後隨時應需、松田、林、兩副長は目下當院に在勤、

電話本局(八八八病院用 八九八私宅用)

東洋內科醫院

東京市神田區駿河臺鈴木町二一番地(御茶水橋畔)

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣相州高座郡茅ケ崎村濱(停車場所在)

電話茅ケ崎(二番)

南湖院

河野副長は目下當院に在勤、

院長診察土曜日午後〇同時窮者施診、

副長診察月、火、水、木、金、土、午前

入院診斷後隨時應需、

毎月一日一回發行

本誌愛讀者

諸君は

ライオン歯磨を

使用したる後暫に口中の爽快を覺ゆるのみならず諸君の齒牙が如何に光澤を有し如何に健强となれるを知りや

ライオン歯磨を

用ゐたる時の口中の爽快と齒牙の清淨とは恰も入浴後に覺ゆる快感に等しきなり

家庭用

美術大罐入

（定價　壹個　金廿五錢）

最も御徳用向

體裁優美にして正味頗る多量而も價格の廉なるが故に家庭用として好評嘖々たり

●試用見本御入用の方は振替貯金又は郵劵代用にて申込あれ直ちに郵送す

東京市神田區柳原川岸

發賣元　小林富次郎

振替貯金口座東京二五二六番

支舖　大坂市東區博勞町　清國天津　漢口

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可